

太平洋戦争に
非ず
大東亜戦争と
申し候

岸塚 康子

人類は愚かなのか賢いのかは意見が分かれるところです。8月になると、終戦特集が始まります。そうして、遺言のように戦争はいけない。誰も得をしないといえます。以前から私は首をひねっていました。

戦争はいけない。これはわかります。しかし戦争は誰も得をしない。これはおかしいと思いました。単純に戦争に勝った国はリッチになっています。そして負けた国は辛酸を嘗めています。

人類は儲かるとなると、他を虐殺しても勝ちに賭けるもので、まったく儲からないものにたった一つの命はかけないというのが私の結論でした。

<http://www.youtube.com/watch?v=sBeCMYild64>

死刑は国家が人を殺す、それは良くないと亀井さんと福島さんという異色のタッグですが、死刑はミニマム（極小）です。

しかし戦争はマキシマム（最大）です。

これこそ国家が人殺しを認めた極地です。

論理というものは突き詰めれば矛盾が露呈しますが、亀井静香さんに、罪人でも、国家が死刑を求刑するのは問題在りというのであれば、他国の善良な市民をも合法的に殺すのはどう説明するのか聞いてみたいと思いました。友人から、ブログだと下から上にしないと読みづらいという話がありましたので読みやすいように一冊にしてみました。

タイトルは「大東亜戦争から太平洋戦争、次はアジア太平洋戦争？」と題していたものを「太平洋戦争に非ず大東亜戦争と申し候」としました。今から、3年前に書いたものですので稚拙ですが、当時の私が私なりに調べて書いたのでお読み頂ければと思います。

今年の五月に電子書籍・アジャスターという小説で作家デビューした岸塚康子です。現在21歳です。日課として毎日、ブログを更新しています。是非、お立ち寄り下さい。

HP <http://homepage3.nifty.com/yuukirinrin/>

勇気凛々 <http://yuuki-ran.cocolog-nifty.com/blog/>

＊誤字脱字が御座いましたら、御連絡いただくと助かります。

1931年の満州事変の次に起きた1937年の日華事変(それ以前は支那事変)は現在、日中戦争となり1941～45年、大東亜戦争は太平洋戦争(私は太平洋戦争で教わりました)となりました。

しかし最近、日本がアジアを侵略したから、呼称をアジア太平洋戦争に変えようという勢力があるらしく近い将来、大東亜戦争はアジア太平洋戦争になるかも知れません。大東亜の語源の由来を調べると亜細亜(アジア)が結集してネットワークの大東亜共栄圏を構築して欧米列強に対座しようという意志の現れから大東亜戦争と呼称されました。よって仮に戦争に勝利していたら大東亜共栄圏戦争で、その目的は米が施行した排日移民法とA B C D包囲網(詳細は[クローズアップ現代 大丈夫か？日本株式市場をみて③](#) 08/06/10)を打破し欧米の列強に対抗する戦争であった、つまり大東亜戦争が大東亜共栄圏戦争になってもおかしくはありませんでした。

私達の世代にはピンと来ないかも知れませんが現代に置き換えると武力闘争から時代はマネー闘争の時代へ転換しています。ドル陣営はジャイアンのドル・のび太は豪ドル・スネ夫はニュージーランドドル、他には香港ドル シンガポールドル カナダドル等です。異論があるかも知れませんがロス疑獄事件の三浦という人がサイパンに入国したところをアメリカ自治領だった事から逮捕されました。

本来サイパンの母国語は辛うじてチャモロ語のようですが数十年後には公用語である英語が母国語になると思います。法律が米で

話す言葉が英語で通貨がドルなら管理下ではなくても管理が行き届いているというべきか早い話がドル陣営です。そこで ヨーロッパはマネーだけでも一本化しようというわけでドルに対抗するEURO(ユーロ)を作りだした訳です。

即ちフランス・ドイツ・イタリア・スペイン・オランダ・オーストリア・ベルギー・ギリシャ・アイルランド他、全部で15カ国がユーロ陣営です。ところで余談ですがイギリスが入っていません。最近ロシアの大富豪がイギリスに住みだしているということです。社会主義国の人でも大富豪になると、みんな自由を満喫します。地理学的に近いですしイギリスなら安心して投資が出来ます。そのイギリスはヨーロッパを代表する国なのにEURO(ユーロ)圏に入らないのはアメリカに近く ロシアにも近いという漁夫の利を意識しているのかも知れませんね。

本題に戻ります。そうするとアジアも例えば中国・韓国・日本（台湾は日本政府が中国に気を遣っているのか国とは認めていないので個人的には挙げたいのですが挙げません）で人民元とウォンそして円を統一した通貨を構築しようとする動きが出てきても不思議はありません。以前、宮澤喜一さんが首相時に新宮澤構想で上記の事を履行しようという動きがあったようですが頓挫しました。というより米の圧力で水泡と記しました。

「Media is message」と云ったマクルーハンは「未来の未来は現在である」と云いました。『逆もまた真也』と申しますから遡れば現在の事は過去の中にあるということになり平たく云えば『歴史は繰り返えされる』ということです。中国は清の時代にイギリ

スにアヘンを売りつけられた挙げ句、1840年にアヘン戦争(二年に渡り中国とイギリスが戦争)になり現在の中国が敗れ多額な賠償金の支払い・香港が割譲・治外法権・関税自主権の放棄・最恵国待遇条項(早い話「イギリスは特別扱いします」)の承認などを余儀なくされました。更にアメリカ・フランスなどの列強とも不平等条約を結ばされました。平たく云えば「お前、イギリスだけに特別扱いするのか。俺を誰だと思ってるんだ。列強のアメリカっていうんだ」ということだった訳です。

アヘン戦争が終了した1842年当時、龍馬4歳・晋作2歳ですから、ひしひしと欧米列強の手が中国から日本に迫りくる恐怖を抱いて育った事になります。これは推測・憶測ではなく清のアヘン戦争敗戦は商人によって幕末の日本にも伝えられ蘭学が発達していた日本では中国よりも、この戦争の国際的な意味を理解し危機感を募らせていました。幕末の気運を高めたのも、この戦争があったからです。

さて、巨大な土地を有する中国がやられたのです。歴史を紐解くとジンギス・ハンにより嘗て中国は支配され日本も元寇の乱で神風が吹き命からがら助かりました。それが今度はジンギス・ハンより遙かに大きい体をもつ天狗の様な存在の手が伸びてきたのです。坂本龍馬の身長は180cm近くあったと言われていましたが最近の研究では169センチだったそうです。その龍馬が高かったと云うことは日本人の平均身長はそれ以下だった訳です。まさにフライ級のボクサー（日本）がヘビー級のボクサー（列強）と戦わなければならないというプレッシャーを当時の人々は抱えていたのではないのでしょうか。

皆さん、地図を思い浮かべてください。日本は大海に浮かぶ島国です。そこで考えるのは同じ人種で歴史的に見ても交流がある朝鮮半島と手を組んで出来れば中国とも手を組んで欧米列強に対抗しようというのが人情ではないのでしょうか。西郷隆盛は大久保利通が仕掛けた西南戦争で死にますが両者が対立した要因は西郷が唱えた征韓論でした。征韓論とは韓国に遣韓使を派遣して開国をすすめようと考えました。

ここからは私の推測ですが西郷さんは欧米列強に対抗するため征韓論（正確には遣韓論）を唱え「自分が朝鮮に赴いて開国を要求してくる」というのに対し、大久保側は「そんな事をいって貴方がもし殺されでもしたら、どうする」と反対。「その時はそれを理由にして戦争をすればいい」というのが西郷さんの主張でしたが西郷さんといえは当時、南州王と呼ばれとても人気のある実力

者でした。その西郷さんが殺されたとなれば影響力は、計り知れないと考えた政府側により反対されました。

豊臣秀吉の朝鮮出兵が1592年、征韓論が唱えられ始めたのが日本の幕末から明治初期、1877年西南戦争にですから歴史的にみれば、たかだか285年前に侵攻された日本からの使節を受け入れる訳がありません。＜さて「翔ぶが如く」で西郷隆盛という人物を詳しく書いた作家の司馬遼太郎さんは明治時代は坂本龍馬を始め名だたる人たちが書簡を書いています。その理由は例えば旅館で西郷さんとおぼしき人にあった場合「あなたは西郷さんですか。お話ししたいのですが」というのを一筆したため女中さんに渡して貰い、貰った方も「お話ししましょう」という旨の書簡を送って、はじめて二人は会話をする事になります。つまり現代人の私達から見れば、まどろっこしいのですが書簡のやり取りがあってから初めて会談する時代だったのです。

司馬さんは、それら書簡の内容から明治時代の人の人柄を理解して小説に書くのですが、しかし西郷隆盛は大きすぎて人物が掴めないと言っていました。そして更に「仮に西郷隆盛が朝鮮に言っていたら彼の人間的な魅力で朝鮮人と上手くいったかもしれない」としています。しかし西郷さんの悲運は前述の通り285年前に全く無意味な朝鮮出兵を試みて朝鮮の人たちに日本人に対する悪感情を植え付けてしまった事です。つまり秀吉が無益な事をしなければ時代は変わっていた可能性があるかと私は考えています。

日本が知っているくらいですから朝鮮半島の人達も中国が大変な目にあっていることを知っていた筈です。イザとなれば朝鮮人は日本に渡るしかありません。その時に拒絶されるよりは友好関係

をもっていた方が有利だった筈ですが、全て豊臣秀吉の朝鮮出兵によって日本に対する感情がよくないことから成立しませんでした。

よって大東亜戦争はそれ以前の少なくともアヘン戦争まで遡らないと当時の人の意識が理解できないと思います。

歴史は常に勝利者によって書き換えられます。それも遡って書き換えられる事さえあるようです。

私の世代ではアジアを亜細亜とは書きませんし亜細亜という漢字を読めない人も多く居ます。一度ヘキサゴンで出題して欲しいものです。よって大東亜に至ってはチンプンカンプンですから太平洋戦争というネーミングの方を支持します。そうすると将来はどうなっていくのでしょうか。

角度の違った情緒から検証したいと思います。戦後、学校給食はパンが主流だったようです。食べ物には相性というものがあります。梅干しとご飯は合いますがパンと梅干しは想像したくないように、おにぎりにお茶は付きものですが、おにぎりを食べているときに「どうぞ」と言って珈琲を出されたら腹が立ちます。パンにみそ汁もその類です。

戦後、牛乳のかわりに脱脂粉乳という私は呑んだことがないミルクに似たものとパンを食べさせられたそうですが、それはアメリカの国策で余りぎみだった麦を日本に売ってアメリカの小麦生産業者を救おうと考えたようです。その為には、まだ味覚が決まっていない日本人の子供をパン食にすれば未来永劫、アメリカの小麦市場は安泰であるとしてのアメリカの策略にも似た戦略が功を奏し「日本人は米を喰って馬鹿になった」キャンペーンまで繰り広げられたと知りましたが 本当だったのでしょうか？

パンと脱脂粉乳までは分かるとしてコッペパンとおかずは魚です。箸もないのに魚はどうやって食べたのだらうと思っていたら

スプーンの先が割れていて先割れスプーンで食べたとか。でもパンと魚ってあわないですよ。そうして学校給食で米離れ魚離れが進んでいきました。つまりパンは旨いけど魚はまずいと感じたようです。やはり魚の味はご飯で味わえるものです。回転寿司で食パンにマグロが乗っかっていて醤油つけて食べるの想像したくありません。魚は醤油、醤油といえぱパンではなく米ですから。そういう訳で子供達は魚が嫌いになり肉を好むようになります。肉はどこ、それはアメリカ産です。アメリカの人口の半分の人口が日本人ですから 小麦生産農家も牛を牧畜しているアメリカの生産者の市場は労なくして給食パワーだけで市場を1.5倍に広げる事が出来た事になります。シニカル [cynical]に言えば韓国国民と違い日本人は全頭検査されていない牛をロシアルーレットのように今も尚アメリカ戦略にのって食していることになります。

そういうわけで子供達の食の根幹の学校給食が「ご飯・魚さん、さようなら。パン・牛肉さんこんにちは」ということになって早60年。栄養失調は死語となり今や日本はメタボ大国になって正に『欧米か！(もう古いか)』です。これでは今、騒がれている米の自給率が低いのも納得、いや当然という訳です。

これらの愚策は大いなる後遺症を招きボディブローのように利いてくるという一つの実証です。政治家たる者は『国家百年の計』を考えて行動してほしいものです。ですから若い世代の受験勉強の達人達は特に勉学が得意な子ほど「あっ、そう。 アジア太平洋戦争に変更ね。間違わないようにしよう」というわけで脳の記憶の回路にあるデータベースから瞬時に「太平洋戦争」から「アジア太平洋戦争」に一発変換してしまっって「何故?どうして?誰がそうしたの?そして誰が、そうさせたの?」といった質問はしません。質問することで「点数が10点上がる」と云えば別ですが。そうなると、ますます当時の人達の先代の思いとは大きくかけ離れていくことになります。私達世代は常に先代の良き代理人でなければいけません。そうでなければ伝統とか文化は継承されません。滅びてしまいます。『死せる孔明、生ける仲達を走らす』という言葉があります。これは五丈原の戦いで蜀の天才軍師・諸葛亮孔明が死んだ際、これを聞いた仲達は「大チャンス到来とばかり蜀軍を

追撃しますが孔明が言った「その時は猛烈に反撃せよ」という遺言を履行します。仲達は「これ程の勢いで向かってくるというこ

とは孔明は生きているのに死んだと見せかけたに違いない」と深読みして退却してしまいます。上記は三國志正史で三國志演義では孔明に瓜二つの木で作った人形を作り、それを見た仲達は「孔明が死んだというのは罠であった」とし退却してしまいます。私の想像ですが、これに似た事をしたのが武田信玄です。信玄は遺言で「自分が死んでも三年は伏せろ」と言って死んでいます。きっと信玄は生前から『死せる孔明 生ける仲達を走らす』を知っていて自らも影武者を立てていたのではないのでしょうか。上記のことから後生は魏の司馬懿仲達より蜀の諸葛亮孔明の方が上だと捉えがちですが果たしてそうでしょうか。

「死せる孔明（54）、生ける仲達（52）を走らす」とは三國志の有名な故事です。つまり 孔明は死んでも仲達には負けなかったとするものですが私は以前から、そう思っていません。

諸葛亮孔明（181～234）

司馬懿仲達（179～251）の年齢差 僅かに2歳。

戦乱に次ぐ戦乱の時代。到底、現代の50代とは比較になりません。現代で言えば長寿で80歳くらいの価値があったのかも知れません。年齢は2歳だけ仲達が下です。と言うことは五丈原で諸葛亮孔明が死した時が享年54ですから司馬懿仲達は当時52歳だったと言うことになります。年齢によるハンデは、ほぼ無いと言っていいと思います。孔明は臨終の際に側近が「孔明様亡き後、誰を後釜にしたら宜しいですか？」と尋ねると孔明は虫の息の中で後釜の名前を告げます

。すると側近達は「孔明様、その者の亡き後は誰を後釜にしたら宜しいですか？」

と尋ねると孔明は微かに目を開き、又かの者の名前を告げます。すると又、側近達は「孔明様、その者の亡き後は誰を後釜にしたら宜しいですか？」と果てしなく尋ねたと言います。

後藤新平が死の直前に言った言葉は『金を残して死ぬ者は下だ。仕事を残して死ぬ者は中だ。人を残して死ぬ者は上だ』と言いましたが孔明の後に蜀軍は孔明を見いだせなかったようです。信玄は、その事を知っていたのか「三年は自分の死を伏せよ」と残します。三年の間は撃ってでることなく内部の充実に心がけ、三

年の間にはそれ相当の人物が現れるだろうと考えたのかも知れません。

それでも心配だったのか、信玄は息子・武田勝頼(諏訪頼重の娘の諏訪御料人⇒実名は不明が産んだ)に「宿敵・上杉謙信(信玄より9歳下)も、もう歳だ。着々と三年の準備を怠らず謙信を討て」と言ったのかと思いきや

(参考)

武田信玄(1521-73)享年52(期せずして孔明と同じ52です)

上杉謙信(1530-78)享年48

「いざという時には謙信を頼れ。謙信は頼まれれば見捨てる男ではない。もしもの時は謙信を頼れ」といったと甲陽軍艦にあります。この時、信玄は病床から身を起こし川中島の方角を見つめます。そして懐かしそうに目をほそめました川中島を挟んで生死を賭けての戦いは五回にも及んでいたことを指を折りながら確認するように一条の涙が信玄の頬を伝わります。勝頼は父に近づくと懐から懐紙を出して父親の見せた初めての涙を拭い、父・信玄の胸中に去来しているものを探し当てようとするのでした。

信玄は心の中で「謙信よ、わしとお前がこんなに近くではなく離れて生まれていたら、お前は東をわしは西を抑え最後に雌雄を決し天下人になっていたものを・・・」そして又、静かに病床に伏せたのでした。(すみません、これは私の脚色ですが)

しかし、ここからは私の脚色ではありません。謙信と言えば白馬に跨る白頭巾。 服装といえば僧衣に身を包み三尺の太刀を振りかざして床几の上に腰掛けた信玄が軍扇でこれを払いのけるシーンが有名です。このことは甲陽軍艦に記されているのですが現代

では、この甲陽軍艦自体が後生が脚色したものと捉えられています。理屈っぽく言えば、この頃の謙信はまだ出家して居らず従って坊主頭でもなく白頭巾を被っている筈がありません。謙信の馬は名馬で放生月毛(ほうしょうつきげ)という名前でしたが白馬ではなく今で云うクリーム色だったようです。また信玄に斬りつけたのは 上杉方の文章によれば荒川伊豆守(あらかわいずのかみ)であるとされています。

ここからは私の意見なのですが白馬に跨って白頭巾をかぶり僧衣に身を包んで三尺の太刀を振りかざすとなると「私はここだ」とわざわざ敵に知らしめているようなものです。如何に戦の神・謙信であっても頭には兜（カブト）をつけていたのではないのでしょうか。川中島で信玄が手痛い傷を受けた事は文献に残っているので信憑性が高いと考えると武田側は一介の武将に傷つけられたのでは格好が悪いので、いっそ毘沙門天の化身の上杉謙信と一騎打ちをした事にしたのかも知れません。

更にいうと映画・テレビの時代劇でサラブレッドが出てきますが（暴れん坊將軍の乗っている白馬）当時の日本の馬はポニー程度の大きさしかなかったようです。これ以上書いていくと夢がなくなるので、この辺で。

以前、正義の戦いは存在しないと記しました。それでは勝利する
と言うことは、なんであるのか。それは死なないということです
。そんな無茶なと思われるかもしれませんが、これに尽きます。
前述したように 信長は謙信より三歳下でしかありませんでした
。謙信は無類の酒好きで死因は厠(トイレ)に立った際に脳卒中で
倒れたと言われ日頃の大酒が禍したと言われています。これを裏
付ける資料としては上杉家や上杉神社にある謙信常用の杯が、い
ずれも直径12cm前後の大盃だった事から謙信は馬上でも酒を呑ん
でいたとされています。

つまり信玄は『人は城 人は石垣 人は堀』と言われるほど人
には精通した人でしたが後継者の武田勝頼は新興勢力の織田の軍門
に下りました。謙信は生涯結婚しなかったので子孫を遺しません
でした。その対比で言うと徳川家康は質素儉約を常とし今で云う
健康オタクで生薬にも精通し、その知識は専門家が舌を巻くほど
で自ら調合していたとのことです。よって真の勝者とは生き延び
て自分以上の後継者を遺し自分の思いを枯らさせない事が必須だ
と考えます。これは最大の戦略です。華やかな戦略・戦術より地
味な日々の積み重ねですから誰でも出来ることです。

煙草は $@280 \times 365 \text{日} \times 10 \text{年} = 1,022,000$ 。1日1箱10年で100万(
単利)です。明日からは煙草も酒量もみんな半分にして半分健康に
なればGDP(国内総生産)は延びますし医療費も削減されます。そ
うして酒や煙草が飲みたくなったら歩く。歩いている時間が長く

なればメタボも解消できます。これは誰もが、その気になれば出来る事です。少しづつ一歩づつずっと続ける。例えば1日1ミリを休まず伸び続ければ10年で365cm(3m65cm)になります。

巨大な恐竜の最大寿命は200年でしたが恐竜は絶滅してしまいました。ほ乳類は恐竜とは反対に小型化し短命になることで急速な環境変化に適応したことで種族を絶やすことなく今に繋げています。つまり子孫に生きる技術を伝承し続ける事で絶滅を逃れてきたわけです。その事から子孫に託すことが重要で、より強い子孫を残すには人間の場合、教育を通して自分の世代より優秀な世代を作っていく事が重要になります。つまり自分達だけが良いという思想・考え方はほ乳類の遺伝子にはないのです。

結果として武田が滅び上杉・織田・豊臣が滅んでいきました。徳川家康が「困難に直面した時こそ心も引き締まって慎重なり、勤めも正しいものとなる。それこそが人も国も永く保つ秘訣である。」(岩淵夜話)と言っています。これは天下を取ってからの信長・秀吉の凋落振りを目の当たりにしてきた家康の教訓です。だから家康は天下を取っても質素儉約を常とし長寿を考えて、薬の調合を趣味としていました。家康は天ぷらにあたって死亡したと言われていますが徳川家康(1543-1616)享年74ですから現代で言えば90歳くらいの価値があったのではないのでしょうか。

三代将軍・家光(家康の孫)は家康を崇拜しました。日光に東照宮を造り家康は神階正一位を贈られ東照大権現という軍神までなりました。そんなことはどうでもいい。死んでしまえば分からないよという人には意味がありませんが 私は家光の一番の大功績だと思っています。 鳴き竜、三猿と言われる（見猿 言わ猿 聞

か猿)そして同じ左甚五郎の眠り猫が有名ですが日光東照宮には今でも年間400万人近くの参拝客が訪れます。家康は東照大権現という軍神ですから徳川に謀反を企てようとしたときそれは軍神東照大権現様に刃向かうことを意味します。当時の日本人は今の日本人よりも遙かに信心深かったので幕府に不満を抱く武将には絶大の効果を上げたのではないのでしょうか。

いったい誰が、そこまで考えたのか。それは家康本人でした。日光東照宮・軍神 東照大権現が徳川幕府250年という世界に類例のない戦乱無き良き時代を築き上げた大きな理由に私は日光東照宮の果たした役割は大きいと思っています。家康は死後一周忌が過ぎたら、日光山に小さな堂を建てて神として祭ること。八州の鎮守ヲヅユ(日本全土の平和の守り神)となろうと述べたとされています。「策士、策に溺れる。武によって立つ者は武によって滅ぶ」のが世の常であることを家康は目の当たりにして生きてきました。権力で人心を掌握するのは一時でしかありません。

そこで家康は道で人心を掌握する事を考えたのではないのでしょうか。自分が神になることで徳川幕府を安泰にすることで世の中を安定させていく道です。信長は生きている時に神をも従えさせようとして墓穴を掘りましたが。家康は死んで軍神になることで死後の安泰をも考えました。家康はかなり人間通だったと思います。

信玄をして「謙信を頼れ」と言わしめたほどの人物だった謙信は越後の虎』『毘沙門天の化身』『戦の神』織田信長を討ちにいく直前に死亡します。上杉謙信(1530-78)享年48ですから武田信玄(1521-73)没後5年後の出来事でした。

信玄の後を継いだ武田勝頼が織田・徳川連合軍と対して敗れています。世に言う1575年の長篠の合戦です。これは謙信が死ぬ3年前ですから武田やぶるるを知った謙信は戦の神ですから武田が織田・徳川の連合軍が当時で考えると余りに卑劣な飛び道具の鉄砲隊によって史上最強軍団であった武田の騎馬隊が敗れたことを当然知っています。

今で云えば、つい最近までジャスダックに上場したばかりだった織田産業と徳川商事が手を組んで一部市場の雄であり自分の宿敵であった武田ファイナンスグループを正道ではないゲリラ戦法のような遣り方で滅ぼしたのですから上杉ファイナンスグループの総帥としては初代社長の武田信玄に変わって成敗を考えなかったとしたら謙信の沽券に関わります。

多くの観客に応え手を振りレーザー光線の中で法衣に白頭巾で白馬に跨った謙信公の登場です。内藤大助選手の入場テーマ曲が

「[Romanticが止まらない](#)」いいんじゃないでしょうか。（そういえば防衛戦が三度目もうすぐですね）謙信は信長と違うタイプだと思っています。信長は旧観念を捨て去り新観念で攻める人なら謙信は義の人であり、室町幕府再建の為に私利私欲を捨て戦った人でした。朝廷（天皇）や幕府（将軍）を尊重し自分の野心で動

かない武将でもあったそうです。

織田信長は比叡山延暦寺を焼き討ちし4千人の僧侶（女子供を含める）を殺害しました。当時の僧侶は今のものとは全く違います。毘沙門天とは仏教。その仏教を信仰している僧侶を殺したのですから謙信は心底では信長を許すまじきと思っていたのではないのでしょうか。兎に角あまりにも新感覚の持ち主であり日本の歴史上でも稀有な存在の信長。信長が謙信に贈った「洛中洛外図屏風」。近年の研究で、この中に足利將軍邸に向かう謙信の姿が描かれていることが判明しました。そこには、必死に謙信に媚びを売る信長の心が隠されているようです。

上杉謙信(1530-78)享年48

謙信より4歳下が

織田信長(1534-82) 享年48

信長より三歳下

豊臣秀吉(1537-98) 享年61

秀吉より六歳下

徳川家康(1543-1616)享年74

1575長篠の合戦

1575長篠の合戦から二年後

実は史実の資料が少ないせいなのか有名ではないのですが謙信と信長、最初にして最後の戦がありました。時は1577年、加賀の手取川。謙信は、この戦いで信長自慢の鉄砲隊を完全に封じ込め、織田軍の精鋭部隊を完膚無きまでに打ち破り、信長を窮地に追いつめたとあります。流石、戦の神様、生涯に70回以上の合戦をしましたが殆ど負け無しでしたから謙信は勝頼 敗れる報の後、織

田の鉄砲対策を編み出していたのかも知れません。

この合戦を評して『上杉に逢うては織田も手取り川はねる謙信
逃げる とぶ長(信長)』という落首があります。

因・縁・果の法則で言えば今起きている現象は、それ以前に必ず原因の因があります。福田首相の悩みの種。即ち参院選大敗・ねじれ国会・後期高齢者医療制度・年金問題の全てが小泉・安倍政治の不始末です。大半の人は福田さんの支持率低下だけを見て駄目だと思うかもしれませんが実は福田色を打ち出せる状態ではないわけです。小泉さんは人気があるようですが支持者は小泉さんの後までも正しく評価しての結論なのではないでしょうか？

三國志に話を戻しますが結局、劉備玄德は漢王朝末期から黄布賊が暴れだしたことから張飛翼徳・関羽雲長と桃園の誓いをして義勇軍を起こしました。その劉備玄德に対して諸葛亮孔明は「一代で中国全土を制定するのは到底無理。中国を三分割して、その内の1/3を掌握しよう」という天下三分の計を説きます。所謂、三國志物語の最初を説きます。

劉備は、これを聞き入れ、その後時代は魏・蜀・呉の三国時代となっていくます。孔明は当然二代目・三代目で中国統一を考えていましたが、関羽雲長が逝き張飛翼徳が逝き 劉備玄德も先立ち蜀は重篤状態。しかし「泣いて馬謖を斬る」という名句が、あるように 後継の人材を育てようとしても上手く育たないままに命が果てます。

さて、孔明亡き後どうなっていったのか。目の上のたんこぶだった最大最強の敵である諸葛亮孔明が逝った後、魏では宰相・曹操から既に長男・曹丕ヲヒ、次に曹叅（実子）、次に曹芳ヲケイ（実子）、次に曹芳（養子）に政権が移りました。ところが曹芳が

幼い事を良いことに曹操の甥・曹爽が実権を握って、司馬懿仲達を閑職に追い込みます。そこで司馬懿は重い病を装い、安心させ曹爽が狩に出ている時にクーデターを決行。曹爽の一族を処刑し、この功績により司馬懿は軍の最高責任者に就任。実質、司馬懿一族が魏を支配。そして司馬炎(仲達の孫)が265年に晋王朝を創建しています。

諸葛亮孔明が五丈原で死ぬのが一ヶ月遅れていたら司馬懿仲達が戦死していたかも知れず謙信が目的遂行の為に酒を慎み半年寿命が延びていたら、信長の時代は無かったかも知れません。事実、信長は1577年 加賀の手取川で謙信に敗れてから謙信へ次々と貢ぎ物を送ります。中でも有名なのが「洛中洛外図屏風」で近年、足利将軍邸に向かう謙信の姿が描かれていることが判明していることから信長が如何に謙信を恐れていたかが分かります。

このように英雄の寿命は歴史に大きな影響を与えます。坂本龍馬が暗殺されずに生きていたら西南戦争は回避された可能性が大です。龍馬は犬猿の仲であった薩長同盟させた立役者です。同じ薩摩藩の西郷と大久保が唾み合う無意味さを説いたでしょう。英雄が英雄を知って作られる歴史。その事が後生に良い影響を与える場合もある変わりに飛んでもない悪影響を与える場合もあります。

その悪しき例が大東亜戦争です。良い例なら例えば謙信が軍扇の信玄に法衣に白頭巾、白馬に跨って太い刀を翳したとしても特に問題がありません。しかし悪しき例は詳細に一切、偽りなく正しいありのままの形を保存しなくてははいけないと思います。韓国が問題にした従軍慰安婦問題。中国残留孤児の問題。どうして大人

達は戦後半世紀も経っているのに引きずり続けたのかと以前から分からなかったのですがフォーラムやサイトで調べてみると大人世代、特に団塊の世代の人達は「何故、大東亜戦争になり何がいけなかったのか知らない」というのです。何故かというと教科書にも載っていなかったし載っていないから試験問題にもならなかったという訳です。

中国残留孤児問題も従軍慰安婦問題も報道されてから知ったというので知っている団塊の世代の人に同じ質問をしましたが異論はありませんでした。特に団塊の世代の方に教えて欲しいのですが、中国残留孤児の問題・従軍慰安婦の問題も含め大東亜戦争で教えられた皆さんはどういうことから大東亜という呼称が付いたのか、その理由を教科書で教えていたという方がいらしたらコメントをいただきたいと思います。

私のブログで書いて紹介したように新憲法(戦後憲法)の三大原則は国民主権(主権在民)・基本的人権の尊重・平和主義へと変わりました。戦前は主権は天皇であり基本的人権の尊重も平和主義も明文化されてはいませんでした。主権在民にも関わらず国民が知らない、その因・縁・果が書けない私の疑問辞典に入っている項目は

- ①何故、年金の民営化ではなく郵政民営化だったのか？
- ②何故、司法制度は改革されたのか？
- ③何故、裁判員制度がすすめられたのか？
- ④何故、政府系銀行だった日本長期信用銀行に国民の血税が9兆円が導入された挙げ句、聴いたこともなかったリップルウッドというアメリカの投資会社に瑕疵担保条項付という絶対に損が発生

しない保険付きで10億円で転売され新生銀行という漢字名で上場しただけで3000億円の利益を稼がせたのか。

入札制度にすれば個人のポケットマネーで買えるような金額で落札される筈がありませんでした。

そして今回、縷々書いていて私の疑問辞典に新しく入れたのが⑤
何故 戦後60年以上経過するにも関わらず日本未曾有の大有事の因・縁・果を子供達に説かないのか?ということになります。

私の書いた小説『大泉総理と風子さん』の中から抜粋↓

「昨日ね、私の門下生が来たのよ」

「教科書貸してくれた子ね。インターネットや図書館に行って色々調べて独自の構想を練り上げた男の子ね」

「その子に例の歴史教科書の問題の歴史のところでの授業風景が、どんな感じだったのかリサーチせよって云っておいたのよ。どうだったと聞くと、歴史教科書に載っている写真なんかを、少し怒ったときの先生の顔に似ているとか云ってクラスを笑わせる子までが、背中を丸め、自分だけの世界に入るようにして写真を見入っているらしいの。通常なら、みんなどんな顔しているのかなって、子どもだから視線を動かすでしょう。でも、その時は誰も人の様子を気にした様子がなくて、重苦しい雰囲気の中で眉間に皺寄せて聞いているんですって、先生は日本人が日本人以外の人を見たら見境なく、殴るか、殺すかのような、アノおどろおどしい教科書を歩きながら読んでいる。子ども達は、その時の証拠写真を見せつけられ、グウの音も出ない思いで、食い入るように教科書の中の写真を見ているわけ、エビックさんに言わせればもっとも巧妙なトリックを披露している状況、教師は普段の教室の雰囲気が違う事は分かるはずだから、日教組系の先生なら聞かせどころよね。そして教科書を作った人達から言えば、マインドコントロールのなされた瞬間ということになるわね」

「門下生は？」

「彼には、まだ授業していない時に、家で何回も読んで、変な所

があると少しでも思うところがあったら教えてよって云ったら、おかしい所は日本の教科書なのに、日の丸がなくて、オリンピックでは日の丸を揚げて君が代を歌っていると出しているところ。世界の国旗とうたっているのにアメリカの国旗は汚く載せてあるけど、イギリス・ドイツ・フランスの先進国の国旗がなくてエチオピアとブラジルの国旗がある点を指摘したわ」

「さすが、門下生ね」

「その門下生が、僕は風姉ちゃんから、先に聞いていたし、風姉ちゃんから、教室現場でのみんなの様子をレポートにまとめよっていう仕事があったから、胸を張ってみんなの態度を見ていたけど、風姉ちゃんの話聞いていなかったら僕も背中丸めて、眉間に皺寄せてああいうふうに教科書を見ていたんだなと思った。僕は下を向いていなかったから先生と目があったんだけど、どうしてお前は、みんなが沈んでいる時に下を向かないんだというような怪訝そうな顔をしていたって云っていたわ」

「怒られないだけでしたっただね。あの子は風ちゃんが見ている子だから勉強も出来るし、それで怒られなかったのよ。その時、先生にお前のそうした態度は、ここに出てくる兵隊と同じ態度だなんてやられたら、一生引きづるところだった。そうならなくて良かった」

「そういう形で、日本の子ども達が全員、ある時期に下を向いて日本人をひどい奴だと思う。そして僕の中にも、私の中にも、そうした残忍の血が流れているのかと思う。そこでチャイムが鳴り響く。みんな、沈鬱な表情でいると、ムードメーカーの誰かが、オイ遊ぼうぜと、いつもより大きな声を掛ける。取り越し苦労し

ているのは自分だけだったと、直ぐに以前のみんなに戻るのよ。施した教師はこれを見て成果が上がったとみるかどうか。子ども達はいつもより、大きな声を出して、いつもよりおどけて、いつもより早く走る。可哀想に、みんな、自分の血の中にある悪い物を蒸発させるか忘れるようにしているの。おい、お前どう思う、そんなに日本人って悪い事をしたと思うかと話せる段階をとうに超えている。話してはいけないこと。黙っていることなのだと思います」

「日本人って、何処の国の誰よりも、そういうときに察してしまうんだよね。自分の胸に秘めるっていうのかな」

「一人になった道すがらにフト、その日の授業を思い出す。その後で、クラスメートは普段と変わらなかったことに気付く、こんなことで悩んでいる自分の方が考え過ぎなのだと思って帰ると、いつも通り、宿題やってから遊びなさいよという声が聞こえてくる。何も昨日とは変わらない、ある日の40分はこうして脳裏に強く刻まれていくわけ」

「みんなが黙認して個人で悩んでいるけど、口にしないから公にならない、ボディブローのように後で利いてくるんだね」
という件りがあります。

実は⑨で抜粋した部分は私が小学校6年の時の社会科の授業で実際に体験したことを脚色したものでした。

この時の担任の先生は男性で、色々とイベントを開催してくれた先生でした。私が小学校6年の時に日商簿記2級を取得したときはクラスメイトの前で賛辞を送ってくれました。その後で親しくしていた女子に「ねえ、凄いのは分かったけど簿記って何?」と言われてうまく答えられなかったことを覚えています。

5年生の時に『30人31脚』に出場する事になりクラスは頑張ったのですが予選敗退。来年は、それ以上を目標に練習に余念がなかったのですが6年生の夏休み中に、クラスメートの男子が自殺してしまい新聞にも出たことから先生は涙を流して『30人31脚』は辞退しようと言いました。葬儀には多くの父兄も参列されました。口々に父兄の方達が「これで二度目ですね。小学校に入ってから5月に女の子が車に撥ねられて亡くなっていますからねー」その後、二の句が出なかったのは 自宅のクローゼットで首を吊って自殺していたからでした。今もって死に至る原因が分かりません。

ほんの2ヶ月前の6月に日光へ修学旅行に行った時の思い出を「日光に みんなと行きたい またいつか」と彼は詠んでいました。亡くなる日の数時間前の午前中に、その子はプールに行っていました。私と親しかった女の子も居て、その元気そうに泳ぐ姿を目撃していました。先生が夏休みに開いていた学校のプールの時間に「おーい 随分 泳ぎがうまくなったな。凄いぞ」と泳いで

いる男の子に声を掛けると嬉しそうにプールの中から手を振っていたのという話をしたので女の子は「きっと、もっと先生に誉められたいと思って練習していたと思う」と言っていました。葬儀会場で最後のお別れが終わると、海外出張に行かれていて訃報を知ったお父さんが「帰ってきて息子の生前の様子をビデオで見て、こんなに大きくなっていたのかと知った」と言われました。私達が佇んでいると先生は「お前達、集まれ。いいか、お前達。死ぬな、お前達は絶対に死ぬな」と言って号泣しました。大学時代はアメフトをやっていたという熱血先生の涙を見たのは初めてでした。その子の御両親が御礼に学校にきた際、教室を見たいと言われたので先生が案内すると先生の計らいで机を片付けないでいた上に私達が花を飾っているのを見て御両親が「みんなから 好かれていたんですね安心しました」と言われていたと先生が私に話してくれました。

今でも8月になると、いつもその時の事を思い出します。

熱血先生は夏休みに肝試し大会をやろうというプランを立てくれました。私が小学校6年の夏休みが始まってすぐの事でした。

夕方、グループ毎に校内を回ってP T A（お母さん達）が脅かし役をしました。その後、体育館でタオルケットを持ち込んで寝ました。楽しい思い出ですが、その裏には先生の演出がありました。

私達が教わった歴史観は主題がぼんやりですので、はっきりと分からないようになっているのですが日本を鬼ヶ島の鬼、アメリカを桃太郎としてあてはめると日本が東洋諸国に戦争を仕掛け悲鳴を上げている国々に変わってアメリカが日本を制裁にきた、あまり言うことをきかないので東京大空襲・広島・長崎に原爆を落としたとしてアメリカを桃太郎に日本を鬼ヶ島、兵隊さんを鬼に置換するとピタッと当てはまることに気がつきました。

このときにクラスメートは全員下を見て顔を上げようとはしませんでした。私だけが顔を上げてクラスメートがいつもより俯いて顔を上げられないでいたのをみていました。熱血教師の担任が、なかなか顔を上げない生徒を見て小さな声で「日本人は 悪いことしたんだよ」と言ったことを覚えています。みんなが落ち込んでいるとわざと馬鹿をいったり巫山戯たことを言って笑わせてくれる先生が 一切そうしないで言った「日本人は 悪いことしたんだよ」と聞いたとき救われない気持ちに私はなりました。

もしかすると私がブログを書いている原点はそこにあるような気がします。作家・司馬遼太郎さんは「日本人はいつから馬鹿にな

ったのか調べて書いていく内に作家になった」と言っていました
たが 私は私にも流れている日本人の血はそれほどにむごく残忍
なのかという事を検証しているのかもしれませんが。

私は会ったことがないのですが私の祖父は飛行機乗りで空中で戦
闘の際に脇腹を撃たれ子供の拳がスッポリ入るほどの穴が開いて
いたと父から聞いています。たった二代前の日本人が残忍だった
として簡単に片付ける訳にはいきません。何故なら後一発、祖父
の心臓に、いえ後一発零戦のエンジン部分にでも当たってれば
私は、この世に存在していなかったことになります。後0.1秒何
かが狂えば祖父が撃たれて帰ってきても治療が悪くて死んでいた
でしょう。当時、玉は全部摘出できなかったとのことですので戦
後その事で命を落としたのなら祖母との出会いもなかったのです
から0.1秒の差というのは決してオーバーではないと思います。
これは私に限ったことではありません。当時クラスメートで俯い
ていた子供達も同じように

戦時下を生き延びてきた祖父・祖母が居て存在して居るわけです
。読者の方も戦中・戦後の祖父母、或いは曾祖父・曾祖母の時代
に遡って自分が生まれる確率を一生に一回くらい考えてもいいの
ではないでしょうか。私が教えられた歴史観ではヒトラーと日本
の兵隊さんは殆ど同レベル、ややもすると兵隊さんの方が残忍な
ように取れるように記されています。その兵隊は今居る私達の祖
父か曾祖父の事です。何しろ前触れもなく赤紙一つで徴集され
ていったのですからヒトラーと同じように扱われる筋合いはあり
ません。まして現在、文部科学省その前の文部省(明治4年に設立
)と学校教師が連携して国のために死ぬことを教育した結果では

ありませんか。

それが兵隊の孫、曾孫になって兵隊さんは悪かったといいますが
今でさえ20年近くの居酒屋タクシー、社会保険庁の問題ですから
、お偉い文部省のお役人には赤紙の召集令状は送信されなかった
のではないのでしょうか。

私が言いたいのは強い国が弱い国を支配してきた歴史が世界の歴史であって 正義成る国が不正義の国を制圧してきた歴史ではないということです。勝てば 官軍で官軍は正しいと思いがちな錯覚を利用して勝者の歴史を確実に正義の歴史に切り替えていっただけで最初は所有欲・金銭欲・独占欲それが満たされると最後は名誉を欲します。それが最大の権力なのですが武力を用いずに人々の心を支配していくので中々見抜けません。それは個人でも国でも同じです。自国の国民の批判を巧妙に回避するために仮想の敵国を作り上げます。北朝鮮であれば、それが日本です。だから、その勢力に滅ぼされない為には金正日を將軍の儘にしておく必要性がある。それに値する人物であるという演出が為されていきます。

ヒトラーであれば敵対はユダヤ人であり、その対抗手段がナチスドイツであり その中心がヒトラーであるということになります。今の中国であれば敵対するは日本、対抗手段が中国共産党。その中心が胡錦濤（コジントウ）国家首席、温家宝（オンカホ）首相ということになります。隣の韓国・李明博（イ・ミョンバク）大統領は個人的には日本の首相になって欲しい人物です。李大統領は日本とのパイプを太くして北朝鮮に対抗しようとしています。北朝鮮にしてみれば太陽政策だった盧武鉉（ノ・ムヒョン）大統領のような大統領が望ましいわけです。口実は何でも良いので、米国産牛肉再輸入問題など最適ではないでしょうか。

「韓国人のDNAはB S Eに弱い」と言うデマが流れたということ

も大きな要因で李明博（イ・ミョンバク）政権の屋台骨を揺すっています。誰がデマを流したというのでしょうか？ その一方で音沙汰のなかった北朝鮮は日本人がすっかり忘れていたよど号事件の犯人引き渡しに応じる構えを見せました。何故この時期なのでしょう。北朝鮮の日本憎しの喧伝・宣伝・プロパガンダは60年以上に及びます。その時産まれた人は同じ事を何度もリピートされ60歳になったら、もう正常には戻れません。日本人拉致問題知らないでしょう。よど号犯人のことも小泉さんが首相だった時代の2002/9/17 平壤宣言の前に3兆円の経済援助を約束（履行されたかどうかは分かりません）していたそうです。

北朝鮮の金正日には専属の料理人・藤本健二（仮名）が居ましたが、これだけでも如何に日本の和食が好みだったか分かるというものです。口にするのも

汚らしい筈の狼（日本）料理を食べていたなんて朝鮮人民としては到底考えられない。これも日本人が作りだしたとなるでしょう。何を言いたいのかというと国と国の間で100%正義、100%不正義はありえないということです。何故なら その国の国民にさえ政府も内実を明かしては居ないからです。

おなじみの総力戦研究所を日本国政府は作りました。アメリカと闘ったらどうなるか？昭和16夏・絶対に勝てないという結果がでていましたが、何処の新聞社がこれを報道したのでしょうか。そこから言えることは上層部は国民の知らないところで敵国と繋がっているということです。1941/12/7(昭和16)(アメリカ時間)ハワイ真珠湾攻撃の暗号文は解読されていたというより解読してアメリカに知らせていた日本人が居たという事実です。「ニイタカヤマ

ノボレ」という暗号もアメリカ人がニイタカヤマなんて知らないんですし日本語が分かる日本人でも解読は出来ません。あのイラク戦争で処刑されたフセインもアメリカと蜜月だった時代があります。つまり上層部は繋がっていたという訳です。

1945/3/10前0時7分から3時間東京大空襲10万人の命を奪った B29爆撃機300機以上 浅草 本所 深川に焼夷弾32.7万

•1945/5/2 イタリア無条件降伏

•1945/5/7 ドイツが無条件降伏

この間にウラン爆弾とプルトニウム爆弾が完成したと言われています。

1945/8/6 午前8時15分広島にウラン爆撃投下 死者15万(投下直後に死亡)

1945/8/9 午前11時2分長崎にプルトニウム爆弾原爆死者7万(投下直後に死亡)

こうした流れで日本は一挙に、まるで雪崩か地滑りに遭ったように敗戦への道をひた走ることになります。日本国政府が創設した、今で云う未来予測研究所とも言うべき『総力戦研究所』が出した結論。それは昭和16年夏・「アメリカと戦っても絶対に勝てない」を彷彿して余りある程の卓見だった訳です。

聞かされている史実では原子爆弾は当初ドイツに落とす予定だったが間に合わずドイツ敗戦直後に完成。それを日本の広島・長崎に落としたという事になっています。そうであれば

1945/5/7 ドイツが無条件降伏

この間にウラン爆弾とプルトニウム爆弾という種類の違った爆弾が二つも完成した事になります。しかし1945年7/26にポツダム会議ではアメリカが原爆を完成したことを明らかにしていることから、その期間は5/8から7/26の79日間です。5/8以降、5/28内と

ということになります。つまり20日間の間に二つの爆弾が完成したのです。そして、その内の一つウラン爆弾が1945/8/6、広島に降伏させる時間も与えなず間髪を入れずに3日後にプルトニウム爆弾が1945/8/9 長崎に落とされた訳です。（平和記念資料館＜原爆資料館＞HP参照）

アメリカ公文書記録管理局は30年経つと機密文章であっても全て公開する事になっているそうです。しかしアメリカ民主主義を脅かす「負の遺産」となる書類も公表されるとは思いません。現にロッキード事件の真相も公表されていません。権力のあった証拠の痕跡は隠匿がそこにあります。金丸さんの家にあった金の延べ棒、国は「借金で大変だ」と30年も叫び続けていましたが霞ヶ関埋蔵金があるとのこと。民主党の試算では96兆もあるとか。主権は国民にあると憲法で決めておきながら実体の金額は分かりません。それ以前には明治新政府が江戸城が無血開城されたとき一目散にかけ込んだのが金蔵でしたが 蛻の殻(もぬけのから)だったことから今も尚、話題になる徳川埋蔵金。権力のあるところには金とそれに纏わる情報があることは歴史が証明しています。それをたった30年で公表していったら国は持ちません。だって30年で公表できる事実なら 極端な話 直ぐに公表してもさして問題にはならないことでしょうから。従って30年で公表される場合があると取るべきです。ジョン・F・ケネディがダラスで暗殺された事件は映像の方が遙かに真実を語っていますしマイケル・ムーア監督の華氏911も雄弁に語っています。今や文章記録は本物偽物の区別はつきません。映像の方がリアルですしアナログだった昔の方がデジタル処理を加えてコマ飛ばしをしてもケネディ暗

殺の記録フィルムは不自然になります。

本論に戻りますが私は仮に原子爆弾が完成していてもドイツには落とさなかっただろうと思っています。その最大理由はドイツ人は白人種だからです。第二はアメリカにはドイツ系移民もいました。大半のアメリカ人にとってヨーロッパは祖国です。遡っていけば共通の祖先に成ると言うことは兄弟を天空から虐殺することになるからです。その点、日本人ならその可能性はありません。島国ですし黄色人種ですから。それで日本に原子爆弾を落とすことに異論は生じなかったのではないのでしょうか。

それにアメリカ人は既にアメリカに住んでいた先住民・黄色人種だったのであろうインディアン(一説には200万以上)を根こそぎ絶やす事に抵抗がなく、その次にアフリカまでかり出して黒人を奴隷にしています。1776年アメリカ建国当時の人口構成

白人80% 黒人20%

白人内訳

イギリス	60%
アイルランド	7. 8
ドイツ	7
スコットランド	6. 6
オランダ	2. 6
フランス	1. 4

ドイツ人は、ほぼ同率二位の三位です。圧倒的首位のイギリスは中国から絹・茶を輸入し その見返りとして植民地にしていたインドで栽培したアヘンを中国に売りつけました。これはボロ儲けだったでしょう。何しろ隣の国の物を隣に卸して高価な絹や茶

だけ本国イギリスに送れば良い。アヘンは中毒になりますから需要は延びる一方です。勿論アヘンの弊害は百もご承知。だってインドのアヘンをイギリスには蔓延させなかったのですから。この戦争について中国共産党はイギリスに謝罪を要求したことがありましたが、そのときイギリス側が共産党のチベットでの虐殺について国際世論に訴えることをほのめかしたため、それ以上強く要求する事が出来なくなり、そのまもうやむやになってしまったそうです。また、イギリスの歴史教科書の中には、戦争の原因に国家ぐるみでのアヘンの密輸が絡んでいるという倫理的理由からか、阿片戦争の記載がないものもあるが、中華民国政府や中華人民共和国政府はイギリスに対して歴史教科書に阿片戦争について記載するよう要求していないということです。

もしそうであるなら日本の靖国神社問題よりもっと中国にとっては大きな問題ではないでしょうか。何故なら靖国神社の問題は、あくまでも国内という問題ですが、アヘン戦争は歴史的事実なのでから・・・。

白人種優先の観念は根強く彼らの潜在意識にあった。ドイツに原子爆弾を落とせば白人種二位のドイツ人を永久に敵に回すことになります。日本で初めてジーンズをはいた人で有名な白洲次郎さんは今で云う経産省、当時貿易庁の人でした。吉田 茂首相の側近で吉田さんと言えはサンフランシスコ講和条約ですが、その際に並々ならぬ尽力を尽くした人でした。

その白洲さんが憲法改正案作成に関わった際、従順すぎる日本人閣僚の中で一人だけプライドを持ち凜として行動し身長185cm、

イギリス仕込みの流暢な英語で応戦してくる白洲さんに対してGHQは英語の憲法改正案をわずか数日間で日本語にするよう迫ってきました。難色を示す白洲次郎さんに民政局長のホイットニー准将は遂に本音「We have been enjoying your atomic sunshine.

我々は原子力の陽光を楽しんでいたんだ」と発言し早く作業を終えるように露骨に威嚇したとあります。白洲さんは「やはりそうだったのか」と激怒納まらず。「GHQなどGo Home Quickly！（頭文字を取るとGHQ）」と地団太を踏んで悔しがったと云います。

「原子力の陽光を楽しんだ」とありますが当時、原子爆弾の光と衝撃を広島ではピカドンと云ったそうです。そのピカドンの光を楽しんだということは「原爆を実験としてみていた。結果が楽しみでならなかった」という発言に心情の吐露を垣間見ます。これが私が確信犯だと思う最大の根拠です。

2007/1/9に防衛庁から防衛省に格上げされて初代・防衛大臣になったのが久間(キウマ)さんでした。

久間さんは2007/6/30 麗澤大学比較文明文化研究センター（千葉県柏市）主催の講演会で、アメリカの原爆投下の意図について、日本を降伏させソ連の参戦を食い止める為との見解を示し「（前略）...原爆を落とされて長崎は無数の人が悲惨な目にあったが、あれで戦争が終わったのだ、という頭の整理で今、しょうがないなと思っているところでございまして...」と述べた。また「米国を恨む気はないが、勝ち戦と分かっている時に原爆を使う必要があったのかどうか、という思いは今でもしているが、国際情勢や戦後の占領を考えると、そういうことも選択肢としては、戦争になった場合はあり得るのかなと」とアメリカの立場にも一定の理解を示しました。

なお、昭和天皇が訪米から帰国した際に行なわれた記者会見で原爆投下について問われ、広島市民を気の毒だと述べて遺憾の意を表明しつつ、「やむを得ないこと」だったと述べた類似の発言があり（1975/10/31・日本記者クラブ記者会見）、被爆者団体などが抗議しました。これが所謂、久間発言です。同年7月3日、発言の責任を取る形で大臣を辞任。しかし、被爆者や遺族らの怒りは収まらず、同年8月9日に長崎で行われる平和祈念式典への出席を認めないと地元からの通告を受けています。

久間さんのプロフィールは長崎県南島原市出身。東京大学法学部卒業し農林省官僚、防衛庁長官として初入閣です。私は最初に「

恐らくキャリア組であろう」と思って調べたら案の定でした。生年月日が1940生まれですから1945/8/9長崎の原爆投下当時は4歳と9ヶ月です。私など目も眩むような学歴と職歴で長崎出身の御方が先の発言をし広島にも長崎にも無縁で原爆から半世紀も後に生まれた一介の女子の私が、こうして記述している訳になります。

日本国が有事のときには防衛省です。そして、その初代大臣の見解とは全く事を異にしている訳です。久間発言は何度もテレビで放映されました。嘗てオウム真理教のテーマミュージックの「♪ しょうこう しょうこう しょこ しょこ しょうこう あさはらしょうこう♪」という歌を子供達が覚えてしまい、その後 テレビ局の自粛で映像は流れても音声は流れなくなりましたが現に私はチャンと歌えます。これが所謂オウムの後遺症(当時私は6歳)です。

ですから、その真意や意味は分からなくも「原爆投下は仕方なかった」という考え方は知らず知らず日本語を自然に学ぶように容認の下地が出来てしまいます。恐らく国を防衛する要の要に居たお方人なので一介の女子が云うのは釈迦に説法するようなものなのではないでしょうか。

以前は乳類は恐竜と違い体を大きくしないことで環境に順応し現代まで生き延びてきましたが、その代わり代償があって恐竜のように長生きは出来ないことから子孫に代替わりする事で命のバトンリレーが行われてきました。死人に口なしで『死せる孔明 生ける仲達を走らせても』生き残った司馬懿仲達の孫が新王朝を創設したように、それは丁度、葉を茂らせていた枝が歳月の流れる

内にしなやかだった事から固くなり最後は幹から落ちて干からびて大樹の根本で土を被り若い葉を伸ばす養分に成っていきます。お年寄りには自分の果たせなかった夢を若者に託し若者は託された思いを成就し、また自分の身体が固くなり始めた頃に地面の下で若者を支えるように連関していく。これが人類のメカニズムだと思います。

他の動物と人間が唯一違うのは動物は子供を育てるのに自らの命を犠牲にしても、子供はその親の面倒を見ることはありません。人の世は無学で無教養の父母であっても子は年老いた親の面倒見るというのが唯一万物の霊長たる資格のような気がします。私は祖父若しくは曾祖父が私達の感性とは違っていたとは思いません。寧ろ今の人よりもっと真剣で真面目で質素だったと思います。その祖父・曾祖父がヒトラーと同じ様な扱いで日本の教科書に載ることに對し憤りを持っています。その事が正しいのなら私は反論しません。しかしこうして因・縁・果をかいていくと、不自然極まりない物が出てくるのです。現代の世相は乱れに乱れ私でさえ日本人はどうしてしまったのかと思うことがあります。

歴史番組を見て明治時代の人々の気骨に触れると一介の名もない市民でさえ、日本という国を思っていたのだと思って感極まる事があります。翻って今までの私の受けた教育の中で日本国・日本人論を学んだ事がないように思います。それで自分なりに情報を集めて因・縁・果を時系列に並べ、そこから推測することを客観的に書いているつもりで居ます。久間さんに一度、自らの発言が如何なる因・縁・果によって発せられた物か書いて貰う事をマスコミにお願いしたいとも居ます。そして、一介の娘に分からない「

なるほど、流石お大臣になる方は違う」と思う因・縁・果を語って貰えれば私の悩みは一掃されると思います。

私は久間さんはキャリアだと思っていたので調べた所、やはりキャリア組でしたので納得しました。多くのキャリア組がそうした考え方を持っているのでしょう。そして、その中には文部科学省の人もいるでしょう。その人達が何の躊躇いもなく歴史上の呼称を変更しているのであれば私の因・縁・果は的を得ているのかも知れません。

日本は法治国家です。日本国憲法は家で云えば大黒柱です。日頃は気になりませんが、ひとたび大地震ともなれば大黒柱がしっかりしていなければ屋根が崩壊して下で暮らす家族は下敷きになってしまいます。つまり国が家で精神の大黒柱が憲法です。ところが小・中・高・大学の16年間の教育の中で憲法の授業があったのでしょうか?日本という法治国で日本人であるのなら一度は目を通すべきではないでしょうか。

憲法前文

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたつて自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位

を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであって、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務であると信ずる。日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。

とは言うものの私の頭では何を云いたいのか理解できません。ですが英文を直訳すると、このようになるのだらうとは推測できます。「特にここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。」とありますが、確定ではなく制定するでしょう。だって十七条憲法を確定したとは云いませんから。誤訳ではないのでしょうか。何故、憲法が誤訳なのか。無理矢理やらされていて気分が乗らなかったからと云うのは言い過ぎでしょうか。

しかし憲法ですからね。学生の作文じゃあないんですから、こんな憲法で与野党は「憲法違反だ」「いや、そうじゃない」と云っていますが、その前に正しい日本語でお願いしますよと云いたくなります。これでは三千年の歴史が笑いものです。

さて日本国憲法の条文も何を言いたいのか、分かりませんが小学校6年の弟の教科書もよく分かりません。弟は「お姉ちゃんが分からないだから俺も分かんない」と云っています。

教科書から引用↓

日清戦争ののち、台湾を植民地とした日本は日露戦争後、朝鮮（韓国）を支配しようとししました。朝鮮の人々の抵抗を軍隊がおさえ、1910年朝鮮を併合しました（韓国併合）植民地の学校では、日本語の教育を受ける事になり朝鮮の歴史は教えられず民族のほこりを大きく傷つけられました。土地の制度が変えられ、その結果、多くの朝鮮の人々が土地を失いました。朝鮮の人々は日本人の新しい地主の小作人になり、また仕事を求めて日本などへ移住しました。日本は更に満州へも進出するようになりました。いっぽう、朝鮮の人々は、こののちも独立運動をねばり強く続けていきました。＜中略＞

日本は翌年、石油などの資源を求めて東南アジアに軍隊を進めました。またドイツやイタリアと同盟を結びアジアの地域を支配しようとししました。このためイギリスやアメリカと激しく対立するようになりました。1941年、日本はハワイにあったアメリカの軍港を攻撃し、遂にアメリカ・イギリスなどの国々とも東南アジアや太平洋を戦場とする太平洋戦争に突入しました。

以上ですが皆さんは、この文章で理解できたでしょうか？無論、字面は理解できますが因・縁・果が理解できるかということです。視点はどこにあるのでしょうか。これが今の子供達が最初に学

ぶ太平洋戦争(大東亜戦争)なのです。「算数出来ているか？」と聞く親は居ると思いますが「どう歴史を学んでいるか」とチェックする人は少ないと思います。

ところでコレを読んだ皆さん、こんなに具体的に書かれているかと思われた方が大半ではないでしょうか。何故なら私が学んだときより詳細になって更に意味不明になっています。その理由は検閲に継ぐ検閲で恐らく教師の現場の代表と文科省と政党間の思惑の折衷案で出来ているからだと思います。子供達が分かることは日本人は悪いことをしたのだという事のみです。しかし以前ブログで記したようにイギリスはアヘン戦争さえ教科書に記載していないのに日本だけは日本人の手によって子供達が祖父を尊敬しないように教育されて居るわけです。

・イギリスはアイルランド カナダ インド ニューイングランド
ビルマ マレーシア 中国の香港 オーストラリア ニュージーランド ナイジェリア ポークランド諸島

・フランスは セネガル アルジェリア タヒチ ニューカレドニア

・オランダは インドネシア スギナム

・ドイツはタンザニア トーゴ ナミビア

・イタリアは エチオピア

以上のように列強は植民地獲得競争を繰り広げていたという事実を記載すべきですし、何処の国も植民地になることを良しとはせずにインドに代表されるガンジーさんのように非暴力抵抗主義があったことを記載し、しかし日本の植民地政策を許容しなかったとしなければ少なくとも客観的・中立ではないと思います。

そして日本人の子供の教科書なのですからアメリカが日本に施した排日移民法・A B C D包囲網という事の起こりの因・縁・果の因にあたる原因を記さないと 憲法の前文のように二度と読み返したくは無いと言うことになります。

ところがテストに出るということになるとコレを丸暗記した達人が将来の官僚となり「排日移民法？A B C D包囲網？そんなの関係ねえ（古いですが）」と言うことになります。「重要なら教科書に書いてある筈だろう。テストにも出なかったぞ」ということです。重要だからこそ教科書に載らない上にテストに出なかったというのは彼らが偉くなり日本の官僚となっている訳ですが何しろ特権階級の居酒屋タクシーのゴジョウレンですから案外、本当に気がつかないのかも知れません。だって人を裁くお方がストーリーカーしていても大した罪には問われないお国柄ですから。

肉体がグングン成長する時があるように脳も同じように『長足の進歩』をとげる時があると思います。特に教科と大好きだった先生とが見事なコラボレーションを起こすと子供達の中にあつた才能が開花して素晴らしい発明とか芸術も起きてくるのだと考えます。10年で良いから地球の子供の教育の主導権を任せてくれたら10年後地球を変えてみせると言った人がいますが一番、実現可能な公約ではないでしょうか。

インターネット・ケータイでの悪質犯罪が問題になっていますが、今は『悪貨が良貨を駆逐する』のか『良貨が悪貨を駆逐する』のかの闘ぎ合いの時期です。それこそ教育の仕方によって軍事政権ならクラッカーをうみ、日本のように生まれたときから戦争はしないという条項に捺印して生まれてきたような日本の子供達ならクラッカーに対抗しうるサイバーウルトラマンやサイバー仮面ライダーを生むことになります。何故なら彼らのお父さんほど仮面ライダーに憧れた親子二代の世代はありません。お母さん達はイケメン仮面ライダー俳優に夢中ですから確実性のある国策です。

それを使わせないというのは馬鹿な事を云って居るんじゃないというのが私のマニフェストです。戦争放棄を商品化する或いはビジネスモデルにしようとする 龍馬的発想法がないのでしょうか。龍馬は新婚旅行のパイオニアだけでなく今でいう株式会社にあたる『亀山社中』を起ち上げています。その思想を頂いて事業化したのが三菱の創始者・岩崎弥太郎だったので坂本龍

馬から学ぶべきものは多くあります。

今の子供は様々なニュースが入ってくるので中国が韓国が北朝鮮が日本をどう見ているかを団塊の世代及び1974年生まれの団塊ジュニアよりも知っています。汚名挽回・名誉返上をスローガンに全小中学校を回線で結んで話し合って組織化したら日本に敵う国はありません。日本人は一致団結して目標を完遂する事に長けているのに今のままでは子供達の宝の持ち腐れです。

『日ソ不可侵条約』

中・高生の方が読んでいるという話を聞きましたので釈迦に説法の方には申し訳ありませんが上記の説明をしたいと思います。日ソとは日本とロシア(旧・ソビエト連邦共和国：通称ソ連)との条約の事です。不可侵とは読んで字の如くで「お互いに侵略しない」ということです。さて日ソ不可侵条約があるのにソ連は、この条約を破り日本に侵攻してきました。

ところが後10年も経つと「ソ連って何？」ということになります。しかも不可侵が中立に変わって、『日ソ中立条約』と変わっているようです。仮に変更するのであれば『日ロ（旧・ソ連）不可侵条約』とすれば日ソ不可侵で教わった日本国民のお父さん、お爺さんの子供も理解できます。しかし「お父さん、日ソ中立条約って知ってる？」と聞かれれば「知らないな」これで親子のコミュニケーションが終わってしまいます。もしかすると、このような事は既に起こっているのかも知れません。

以下、ブログでは『日ソ不可侵条約』で記します。

ロサンゼルス市警・殺人課のコロンボ警部補も 相棒の警視庁組織犯罪対策部特命係長の杉下右京警部も警視庁・刑事部捜査一課の古畑任三郎警部補も共通する刑事魂は「些細な事がとても気になる」という点ですが困ったことに刑事でもないのに私にも、それが当てはまります。この事を時系列に並べて因・縁・果の法則で読み解くと一つの危惧が生まれてきます。

(Wikipediaより)

1945/2ヤルタ会談、場所はソ連クリミア半島のヤルタで行われました。

メンバー

F.ルーズベルト（アメリカ）

チャーチル（イギリス）

スターリン（ソ連）

連合国の首脳会談。

第二次世界大戦後の処理についてヤルタ協定を結び、イギリス・アメリカ・フランス・ソ連の4カ国によるドイツの戦後の分割統治やポーランドの国境策定、エストニア、ラトビア、リトアニアのバルト三国の処遇などの東欧諸国の戦後処理を発表しました。併せてアメリカとソ連の間でヤルタ秘密協定も締結し、ドイツ敗戦後90日後のソ連の対日参戦および千島列島、樺太などの日本領土の処遇も決定し、これがその後も日本とソ連（現在のロシア）両国の間の長年の懸案となっています。今のくすぶる「北方領土問題」の因・縁・果の因にあたる原因です。

ポーランドに象徴されるヨーロッパ内の問題、当然ドイツの問題など討議されていますが 複雑になるので割愛します。

極東密約（ヤルタ協定）

主に日本に関して、アメリカのルーズベルト、ソ連のスターリン、およびイギリスのチャーチルとの間で交わされた秘密協定。ルーズベルトは千島列島をソ連に引き渡すことを条件に、日ソ不可侵条約の一方的破棄、即ちソ連の対日参戦を促した事になります。ヤルタ会談ではこれが秘密協定として纏められました。ヤルタ協定では、ドイツ降伏の2～3ヵ月後にソ連が日本との戦争に参戦

すること、モンゴルの現状は維持されること、樺太（サハリン）南部をソ連に返還すること、千島列島をソ連に引き渡すこと、満州の港湾と鉄道におけるソ連の権益確保、などが決められました。ヤルタ協定に従って、ドイツ降伏3ヵ月後にソ連は日本に宣戦布告となりました。

密約のヤルタ会談では、米ソ両国は、カイロ会談で決定していた台湾の中国への返還を改めて確認しました。ただ、ここでの中国とは蒋介石の率いる中国国民党のことでした。朝鮮半島は当面の間、連合国の信託統治としています。しかし、その後の米ソの対立が深まると、米ソの代理戦争が朝鮮戦争となって現在の北朝鮮・韓国に分割されています。

この様にアメリカ、イギリス、ソ連といった戦勝国が一切の当事者抜きで領土を勝手に分割割譲していて現代の多くの問題は、このヤルタ会談が因・縁・果の因にあたる原因となっています。アメリカはドイツ敗戦を読んでいたと思いますが、しかし長く続くことも考え自国の損失を出来る限り抑えるため、日本と日ソ不可侵条約を結んでいたソ連に条約破棄して対日参戦させることを示唆し、その見返りとして日本領土をソ連に与えるという約束がありました。それでは何故 ソ連領に成らなかったのでしょうか？

吉田茂首相の側近だった白洲次郎さんに民政局長のホイトニー准将が思わず言ってしまった言葉「We have been enjoying your atomic sunshine. 我々は原子力の陽光を楽しんでいたんだ

」（6/16の大東亜戦争から太平洋戦争、次はアジア太平洋戦争？

⑭に詳細）が気になって仕方がなかったのですが広島・長崎の原爆はアメリカにとって想像以上の大成功だった筈です。ソ連はアメリカに約束を反故されてもアメリカがソ連に原爆を墮とすことを恐れるあまり文句を云わなかった。それにイギリス・中国も恭

順の姿勢を見せた。それでマッカーサー元帥率いるGHQ（占領軍最高司令部）は、そのまま日本に居座る事が出来たのであり
ホイトニー准将は原爆の大成功により日本をアメリカ一国が手中に納められると踏んだので原爆の陽光の光を楽しんだという心情を吐露したのではないでしょうか。

というのが 私の因・縁・果の結果です。原爆投下なく敗戦していた場合、つまりアメリカ主導でなかった場合は

- ソ連が 千島列島 北方四島 北海道 東北地方
- イギリスが 九州と中国地方
- 中国が 四国
- アメリカが 関東・中部・福井県を除く北陸及び三重県付近
- 首都東京の23区 米・中・ソの共同管理
- 福井県を含む近畿は中国とアメリカの共同管理

このように日本は4カ国の植民地に分割されていました。考えて見てください。ドイツは東西に分断され朝鮮も南北に分断ですから日本が4分割もされていたら今のような経済大国2位という脅威の復活は遂げられず、最悪の場合、朝鮮戦争やベトナム戦争のように、日本民族同士が相討つ内戦になる可能性や東京の共同管理にもベルリンと同様の困難を伴いました。また、すべての困難を乗り越えてドイツのように国家の再統合を達成しても、旧西ドイツと旧東ドイツのように互いの国民の精神や生活水準に著しい差が生じれば日本人同士での対立や差別が固定化する可能性さえありました。

日本が分断されなかった最大理由は広島・長崎の原爆による尊い命の代償によって日本は4分割されずに済んだというのが私の結

論です。

久間・初代防衛大臣には「日本人が今こうして生き長らえているのは広島市民の尊い命と長崎市民の尊い死の上にあることを忘れてはならない。長崎に育った私の使命は一人でも多くの国民に、このことを知ってもらう事だ。谷川に堤防があり海に防波堤があるように国家には国防が必要である。その精神がないと絵に描いた餅・仏作って魂入れずである。そうであっては広島・長崎の英霊に申し訳が立たない。英霊の元に今日の繁栄があることに一人でも多くの日本人が目覚め原爆の日を国民がその事を忘れない日と制定し、それを世界に向かって戦争の悲惨さを宣言して世界が二度と再び日本と同じ跌を踏まぬように宣言しよう。本当の平和の祈りとは日本人の心であることを全世界に発信しようではないか」とそう云って欲しかったのです。

そう言うわけで、もし日本が分割されていたら日本語が使えなくなり英語と中国語とロシア語を使う国民に分割されていた訳ですからアメリカに、あまり文句は言えないのかも知れませんね。

立て続けに二個（ウラン爆弾とプルトニウム爆弾）原爆を投下。成果を詳細にするために（広島原爆資料館HPより）広島にも長崎にも空襲は原爆の被害状況を調べる為に5月28日以降、つまり原爆投下の二月前からは空襲は控えるという念の入れようでしたからね。

つまり、こうなる訳です。時系列に整理してみると

- 1945/5/2 イタリア無条件降伏
- 1945/5/7 ドイツが無条件降伏
- （この間にウラン爆弾とプルトニウム爆弾が完成したと言われています）
- 1945/8/6 広島にウラン爆撃投下ドイツ降伏後91日の間に種類の違う原子爆弾が二つ出来たと思いきや
- 1945/7/26ポツダム会談で 米のルーズベルトがイギリス・チャーチルとソ連・スターリンに原子爆弾が出来たと公式発言
ドイツ降伏後80日の間に種類の違う原子爆弾二機が出来たと思いきや（広島原爆資料館HPより）広島にも長崎にも空襲は原爆の被害状況を調べる為に5月28日以降は つまり原爆投下の二月前からは空襲は控えるという念の入れようでした。

よって 1945/5/7のドイツ降伏後から5/27の間に種類の違う原子爆弾二機が出来たという事になり、その間20日間となります。聞か

されている史実では原子爆弾は当初ドイツに落とす予定だったが間に合わずドイツ敗戦直後に完成。それを日本の広島・長崎に落としたという史実から、何と原子爆弾は日本にとって20日以上早ければドイツに。20日遅れたから広島・長崎に落とされた言うことになります。

しかし私は些細な事がきになるんです。コロンボ警部 杉下右京
やっぱり古畑任三郎さんかな「えー、お久しぶりです。古畑
です。ゆうきさん私を使うのに三谷幸喜さんの許可を得て居
ますか？ えっブログを捜して許可を取ろうとしたけど ブログが
ないってーそうですか 三谷さんは今 ザ・マジックアワー
で忙しいですからね。きっと許してくれるでしょう。何しろ太っ腹
な人ですから。でもブログの読者の中で三谷さんに連絡取れる人
が居たら、お願いしておいた方がいいんじゃないんですか。さて
何でしたっけ。あ、そうだ原子爆弾だ。ここにルーズベルトさん
チャーチルさん スターリンさんがいらっしゃるんですね。え
えと 何所ですか、ここは？ 第二次大戦の戦後処理をしたソ連の
ヤルタというところ。それでヤルタ会談ですか。時は1945年2
月の何日ですか？え、分かんないどうしてですか？ だってヤルタ
会談中学の時に教わりましたけど2月のいつか明らかになってい
ない・・・変ですね。本当にあったんですか？

それにしても 第二次大戦の最中にアメリカの大統領のルーズベ
ルトさんがソ連にね。しかしルーズベルトさんは脳卒中で4/12に
亡くなったんですね ヤルタの後2ヶ月くらいでお気の毒でした
と言うことは広島・長崎の原爆の成果は見られなかったんですね

。それで副大統領のトルーマンさんが昇格して7/26ポツダム (ドイツ)ですか。そうですか。ドイツですか。南北分担の話だったんですね。既にドイツは無条件降伏をしていましたもんね。さて、それにしてもヤルタでは既に連合国は勝利したように台湾・ドイツ・オーストリア・日本・中国の事が話し合われて居るんですね。まだ戦闘の最中だったのにまるで全てが終わったような状況のようにです。

ゆうき蘭さんの疑問は「ヤルタの時には既に原子爆弾は出来ていたんじゃないのか」という事ですね。しかしドイツには落とさなかったのは何故か。当時アメリカ人民族構成第二位か三位がドイツ系だった。もしかすると自分の先祖に繋がるかも知れない白人種だった。それは兄弟を虐殺する事になるという恐れもあったという事なんですね。それで島国で黄色人種である日本人ならインディアンとは親戚かもしれないけど自分たち白人種には無縁であるということですか。そうですか、それは一理ありますね。確かに出来なかった原子爆弾が20日の間に二つの爆弾ですからね。

そこで最初から原子爆弾は日本に落とすことに決めていたと言ったらどんな問題があったのでしょうか。2月のヤルタから一ヶ月後の3/10に東京大空襲ですか。B29爆撃機300機以上 浅草 本所 深川 焼夷弾32.7万発です。もし原子爆弾が出来ているのであれば、ここで使えたではないのかというのがルーズベルトさんのご意見。他のお二人も頷いていますね。しかしですね。ここでは、まだあっても落とせなかったんじゃないでしょうか。何しろ原子爆弾ですから、あの当時は日本は今のよう鉄筋コンクリートではありませんから火に弱いんですね。つまり火による被害を見定めてから原子爆弾一火の被害を出して答えを導いた方が良かったんじゃないですか。

それと「ポツダム宣言で日本に無条件降伏を呼びかけたのに呑まなかった」というより神風特攻隊に代表されるように一億総玉砕

をしかねない日本人と世界の世論を鑑みて絶妙のタイミングを捜していた。ソ連は江戸時代に貿易をしたがらない日本に対して武力行使して択捉（えとろふ）を不当に占拠した前科がありましたね。二度目は日ソ不可侵条約（今は日ソ中立条約）を破っての侵攻ですからね。日本を真ん中に駆け引きの闘ぎ合いが為されて居たわけですね。

その点、日本は幼稚園児ですね。この頃、日ソ不可侵条約があるからと北海道割譲案でソ連にアメリカとの仲介を頼むとする極秘電報が残っている程ですから。しかしソ連に上杉謙信は居なかった訳ですね。北海道を削ってまで仲介を依頼していたのに、その時は分からなくても後になると 因・縁・果の法則で見えてくるものです。

第二次大戦後世界はアメリカ民主主義陣営とソ連社会主義陣営とに別れました。結局、第二次大戦とは民主主義と社会主義のぶつかりあった戦争だったんですね。ところが話をおかしくしたのがドイツのヒトラーとイタリアのムッソリーニという狂気を持って場外乱闘に引っ張り出したコンビだった訳です。東洋の主義とは無縁の道の国・日本がこれに参戦したのですから最初から勝ち目のある戦いではありませんでした。

結局第二次世界大戦の教訓は、いくら国民が優秀でも担ぎ上げているリーダーが無能であれば最悪、日本は4分割されていたという事です。現在も未だ官僚内閣制ともいうべき体制で日本は支配されています。この官僚体制は1942年頃、日本を軍国主義にするために永続的に民から年貢を取り立てるように源泉徴収という税金をとるために官僚制度が作られたのが因・縁・果の因にあたる

原因です。その呪縛から今だに少しも解き放たれていません。
ゆうき蘭さん、結局日本の機構に大きな問題があったのではない
ですか。あなたがいう現在の何でも言いなりの政治家と戦時中の
ライオンにでも立ち向かう無鉄砲な猫であったリーダーと入れ替
われば日本は万々歳だったという事に私は賛成します。しかし、
これ以上の追求はもうしないほうがいいのではないのでしょうか。

古畑任三郎でした」

古畑さんのご厚意は有り難いんですが教科書に書かれていなければならないことを、この国の人達は故意に隠しています。子供達に解釈を伝える必要性は一切ありません。只あった事実は隠さずに淡々と知らせる。それが歴史の本当の意味だと考えています。日ソ不可侵条約を破って後、ソ連は日本人に何をしたか。事実を記載しなければ終わることは出来ません。広島・長崎の英霊に祈りを捧げてでも救われない人々がまだいます。

全ては敗戦の7日前の8月9日にソ連は日本に宣戦布告し同日、満州及び朝鮮半島北部に侵攻。日本は8月14日に中立国を通して降伏を声明したもののソ連は8月16日 樺太、17日千島に侵攻しました。ソ連は事実を公表しなかったのですがソ連崩壊に伴い資料が少しずつ公表されています。

シベリア抑留（シベリアよくりゅう）とは、第二次世界大戦（太平洋戦争）末期にソビエト連邦軍の満州（現在の中華人民共和国東北地区および内モンゴル自治区北東部）侵攻によって生じた日本人捕虜（民間人、当時日本国籍者であった朝鮮人などを含む）を、主にシベリアやモンゴルなどに抑留し、強制労働に使役したことを指す。（Wikipediaより抜粋）

平成7年春、北海道新聞がシリーズで報じた「はるかなるシベリア」によると。

「これから日本に帰国する。整列せよ」。ソ連兵の指示に「これで長い戦争が本当に終わったのだ。もうすぐ親や子供、家族に会える」。一九四五年八月十五日の終戦のあと、サハリン、満州な

どでは、ソ連兵により武装解除された日本の将兵達は「トーキョー、ダモイ（東京に帰る）」の言葉を聞く。ほとんどが信じた。激しく戦った米国と違い、「ソ連は本来、敵ではない」、と寛大な処置への期待があった。ソ連側の、「いったん北に向かい、それから帰国する。南に行けば米軍に殺されるぞ」との説明に将兵たちは疑わなかった。中国大陸、朝鮮半島、満州の各地から北へ向かった。

ソ連軍は貨車に乗った日本兵に、「ウラジオストックを経て帰国する」と説明していた。西も東もわからないまま数日が過ぎ、岸边に達した。「日本海だ、この向こうに日本があるんだ」と歓声があがる。実はそれは錯覚で、内陸に位置する「バイカル湖」だった。世界一寒いこの地では、氷点下七十度を記録したこともある。顔をこすっただけで鼻がもげるくらいの寒さだったという。柵も監視塔も必要がなく、脱走は死を意味する。日本人死亡者（六万人）が続発したのは、最初の1～2年目に集中した。戦いで消耗した体力に、劣悪な食事、慣れない極寒のしばれと重労働、収容所の整備が進まない時期に、疲労による病気や伝染病、栄養失調、逃げようとして銃殺されたりし、尊い命を落とした。

シベリア各地に送られ、日本兵を乗せたのは貨車で、一両に百人ほどがぎっしり詰め込まれる。疲れても、横になる余裕がない。用便は停車した時、貨車の下に潜り込んで済ませた。配給の黒パンのほか、残っていたコメをロウソクの火でたいて食いつないだ。「みな、押し黙っていた。目的地に着いたらソ連兵に殺されるという恐れからです」。と若森さん（札幌市）は述べている。満

州で武装解除後、一ケか月以上も貨車に揺られ、中央アジアのタシケントに送られた。抑留者たちはシベリアから内陸部に至る一帯に、二千里以上の収容所（ラーゲリ）に分散、配置された。自動小銃を手にしたソ連兵による略奪が日常的に行われた。腕時計、万年筆、鉛筆などが狙われ、奪える物なら何でも良かった。

収容所のソ連兵は『もう日本の国はない。働くものは食を与えられるが、働かない物は死を意味する』と言われ、やがて銃殺される」と覚悟を決めて頑張った。収容所の壁は六メートルもあり、壁の上には数万ボルトの高圧電流が、内側にはシェパード犬が放され、とても逃げられるものではなかった。一日に与えられたタバコの箱二個分ぐらいのパンと、湯飲み一杯分のスープ。「おなかがすき過ぎ、腹が痛くなった。つらくて、銃を持ったソ連兵の前で裸になり、胸を打ち抜けとわめいた者もいた。首つり自殺に使われそうなバンドなどは、取り上げられた。死ぬこともできない状況だった」。松の木の皮の内側を食べ、「のみ込むことが出来たとき、何でも出来るぞと元気が出てきた」と。

収容所の分隊長が麻袋を手にパンを受け取ってくる。ランプ代わりにシラカバの樹皮が燃え、赤い炎にぼんやりと浮かぶのは、やせこけた顔。加納さん（旭川市）は、「弱肉強食の世界だった。おとなしい人はいつも後方で待たされ、損な立場だった」。夕食でもせいぜいトースト二枚ほどの黒パン。他にカユ、塩辛いスープといった、粗悪な食事と重労働を強いられた。モンゴルに近い収容所の仁科さん（清水町）は、こんな食事と厳寒期マイナス三十五度のもと、スズ鉱山で働かされた。「捕まえて食べられるよ

うな動物は、全くいない。キノコも野草も生えない。水もアルカリ性が強く、生で飲めないのです」。と語っていた。

チフスにかかると高熱が出る。水を欲しがる病人が続出した。その水さえない時は、積もった雪を食べた。ところが雪に砂が混じっていて、かえって病状が悪化した。死相が表れた仲間だれもが、「故郷に帰って、白いご飯と熱いみそ汁が食べたいなあ」とつぶやいた。一日に二十人も、息を引き取った日もあったという。

当事者 虚言者 悪の参謀とも云うべきソビエト連邦の独裁的指導者スターリンは、ヤルタ協定で約束されていた千島列島・南樺太の占領のみならず、日本敗戦直後に米大統領トルーマンに連絡し、北海道の分割占領（留萌町から釧路市を結ぶ線の北東側と両市町を占領）を申し入れました。理由は、「日本によるシベリア出兵によってソ連は占領されたため、ソ連も日本の領土を占領しなければ、国民の怒りが収まらない。」というものでしたが日本人を強制労働で殆ど奴隷の様に使い、更に北海道をくれ。これにはトルーマンも一蹴したようです。

さてトルーマンですが、彼はルーズベルト大統領が脳卒中で急死した後、副大統領から昇進して大統領になりました。そして日本をマッカーサー元帥に任せました。『日ソ不可侵条約』を破ってソ連が日本に南下した裏には民主主義の雄のアメリカがソ連に破ってこちら側につけという働きかけがありました。これに共産主義の雄のソ連が乗ったということになります。

主義が違うのに約束は守らないでいいという宣言をしたのがヤルタ会談の一番発見です。あっ! 重要なことなので云っておきますが私はロシア(旧・ソ連)やアメリカ嫌いではありません。しかし時系列に事を並べ因・縁・果の法則を切り口にして分析していくと、こうした結果が導き出されるのです。

日本が4分割されていたら状況は北朝鮮のような状態であったことは否定できません。同じ民族でも異なる思想・体制を持つと韓国は冬ソナに代表されるように恋愛ドラマで何千億という外貨を稼ぎ出す一方で北朝鮮は日本の戦時下より劣悪なる環境に生きています。韓国はアメリカ産輸入牛肉問題で李明博（イ・ミョンバク）政権が持たないかも知れない状況ですが北朝鮮の人なら、いらぬなら北朝鮮に回してくれと叫びたい心境でしょう。

正に天国と地獄が二律背反しています。それが更に二倍の4分割されていたら言語さえ日本語で統一出来たかどうかさえ危ういわけです。何故ならGHQは漢字を廃止させローマ字を使わせようとしてしました。「多くの漢字を使っているから民主化を遅らせた」として常用漢字や当用漢字に制限を加えたので現に図書館で明治

時代・大正時代の新聞を読もうとしても読める漢字を捜すだけでも一苦勞です。皆さんも一度、図書館で挑戦してみてください。昔の日本人は凄い6年ほどの短い教育期間でこんなに漢字を使いこなしていたのかと感心してしまいます。

語句を沢山知って使いこなしているのは優秀な民族の証であって、それをもって民主化の妨げになるという論理は脱線以上の逸脱論です。何故なら当時の人は民主化を考えている人は政治的背景がある人に限られ一般庶民は眼中になかったからです。お代えしに云わせて貰えれば一人称がI（アイ） しかない国だと陰謀的戦略に優れる民主主義に長けるとでもいうのでしょうか。

『真の理論は 逆も又真也』なんですけど、その点我が日本語は「私 俺 僕 わし 自分 手前 うち オイラ オラ あたい あたし わたし わい わて わっち」時代劇まで遡ると「それがし 拙者 わらわ」もあります。方言まで含んだら更にあります。従ってアメリカが云った漢字が多いと民主化が遅れると云ったのは立前で「昔の資料が読めると日本人がサムライニッポンに戻るかも知れない。そうするとアメリカを手本に標榜する。日本人改造民主化教育が遅れる」との危惧を抱いて漢字制限で一子相伝のような古くて新しい日本人の魂に楔を打ち込んだのではと考えます。

それにより日本人の日本人による日本の為の教育が解体され貧家に多く孝子出で富豪に放蕩者多く、外観立派な学校ほど赤化し易い。という風潮を産み出していくことになったのだと捉えます。(このことはいずれ近いうちに語りたいと思っています) それによって「手前」といっただけで商人だとわかりますし、「わし

」と聴いただけで相手が年配者だと分かります。一人称の違いで個性と年齢まで想定できるのです。

それが英語が主流になってきて、すっかり他の一人称が廃れてしまいました。インドで日本の漢字名をつけて冷蔵庫や洗濯機を売ったら毛筆で書いた字が美しいと評判をよんだとか。日本人は漢字を芸術にまで高めた高い精神の国なんですけど今は見る影がありません。しかし、きっと東洋の漢字が見直される時が来ることを信じます。

このようにして日本はソ連から見える弾圧を受け内からはアメリカによる巧みな精神解体が進んでいきました。

一体、シベリアに送られた日本人は何人居たのでしょうか。その数は今もって定かではありません。65万人が定説ですが捕虜の総数は200万人以上であったという説もあります。その最大理由はソ連崩壊に伴い終戦時、ソ連の占領した満州、樺太、千島には軍民あわせ約272万6千人の日本人がいたが、このうち約107万人(40%)が終戦後シベリアやソ連各地に送られ強制労働させられたと分かってきたことによるものではないでしょうか。

そうであれば異国の極寒地・シベリアで亡くなっていった人達は一割の6万人という数字も、これからの調査で大きく変わってくる可能性があります。帝政ロシア時代より、シベリアは流刑の地として使用されており、政治犯などがシベリアへと送られていました。ソ連成立以降の「シベリア送り」は、国内でも反革命分子とされた人間に課されたものでしたから日本人兵士は殆どソ連では死刑に類する政治犯同様に扱われたことになります。

ウィキペディアより引用↓

1947年（昭和22）から1956年（昭和31）にかけて、抑留者47万3000人の日本への帰国事業が行われました。帰国せずにソ連に残留して帰化した人、記録が紛失してソ連当局に忘れ去られ、後になってからようやく帰国が実現した人もいます。一方、兵卒や下士官を中心に抑留中の教育によって共産主義に感化された人が多数います。冷戦終結後に、ロシア側から収容所や墓地の所在地

リストが日本政府に手渡されたことに基づき、厚生省（現・厚生労働省）や民間の遺族団体などによって、毎年夏季に現地で抑留中死亡者の遺骨収集事業が進められています。

信憑性は分かりませんがアメリカの研究者ウィリアム・ニンモ著「検証―シベリア抑留」によれば、確認済みの死者は25万4千人、行方不明・推定死亡者は9万3千名で、事実上、約34万人の日本人が死亡したという。また1945年から1949年までの4年間だけで、ソ連での日本人捕虜の死亡者は、37万4041人にのぼるといふ調査結果もあるようです。

1947から1956にかけて帰国事業が行われたという事は最後の人には10年抑留された事になりますが日本は旧・ソ連、現ロシアに損害賠償さえ要求していないようです。国が国と国の約束を破ったというのにです。尚そこに100万の人が生活しているとしたら間違いなく半数の50万は女性です。彼女たちはどうしたのでしょうか。手厚く本国・日本の内地にソ連人が送り届けてくれたという記録は無論一切がありません。

筆舌に許されないほどの悲惨な死であったことは想像に難くありません。私は　そこまで調べることは出来ませんが将来そうしたチャンスが与えられたら彼女たちの霊が安らかに眠れるように、その本当の実体をつまびらかにしたいと思っています。そうして今の女性に、そうした先人があって今、私達が生きていることを知って欲しいと思います。

本のタイトルは忘れたのですが『俺が取れたのは 日本が梅干し一個にもならない戦争が終わった頃だった』というような書き出し方で始まるガッツ石松さんが書いた本があります。

今や伝説の男の石松さんですが、これほど適切に短くユーモア込めて言えた人を知りません。梅干し一個どころか世界史上最悪の火の雨が降り、石もその姿をとどめぬほどの火の洗礼を浴びせられ先人が汗と涙で開拓し切り開いた日本の領土は略奪され320万人の同胞の命を失いました。これほどの惨劇は後にも先にもない筈です。

それにしても何故こうも無知蒙昧な行為・行動を取ってしまったのでしょうか。ゼロはいくら集まってもゼロですがトップに1が付くだけで千にも万にも変化するようにリーダーによって組織は一変します。トップが信長だと下まで信長になり家康だと家臣まで質素儉約を常とするようになるように悪しき例をいえばオウムの麻原は嘘つきの典型で信者まで平気で嘘を付くようになりました。

リーダーの人格が組織を決める。これは同じ朝鮮民族でも韓国と北朝鮮では人種が違うかのようにさえ見えることが雄弁に語っていると思います。日本の戦国時代でも武田信玄、上杉謙信、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康と順々に抹殺したならば歴史は大きく変ってしまった訳です。過去の世界大戦にしても傑物を上から順に抜き取ってしまったら今の歴史とは違っていたはずです。大人物と国家は表裏の関係にあります。ですから最高の資源は

人で、その人によって人財にも人罪にも人災にもなることは歴史が数多証明していて、それが歴史だといっても過言ではありません。

しかし日本はその事の重要性を全く無視したシステムを構築しました。それは徴兵制度です。つまり日本は、幕府時代には武士が権力をもち政治を担当していましたが明治に入ってから武士階級に代わるものとして軍人制度を採用し、精神的にも肉体的にも最も優秀な若者を甲種合格として出征させ、それで足りない乙種、それでもまだ足りない丙種というように、優秀な者から順に招集して戦争に参加させました。だから西南の役から日清、日露の戦争、さらに第二次世界大戦と続く間に、戦争のたびに失なわれた優秀な人間の数は50人や500人の生易しい数ではありませんでした。

その結果として優秀さにおいて劣った者だけが残されることとなり、彼らが指揮をした為、少しも先見の明のある人物が創出されませんでした。つまり優秀な指揮官がいませんでした。昭和16年の夏に日本国政府が創設した。今で云う未来予測研究所とも言うべき『総力戦研究所』は米と戦っても勝ちようがないという結論を出しました。更に山本五十六さんは『この戦争は負ける』と思っていたのに連合艦隊司令長官になりました。勝つと思っていても負けることがあるのが戦争なのに、自ら創設した研究結果に逆らい負けると思っている人を担いだのですから、弓矢を持つ人の力量で矢が的を射るか否かは弦を離れるとき、既に決定しているように理に適っていれば思い通りに行き理に逆らっていれば、その通りの結果しか得られません。

東洋の道成る国は西洋の主義主張の国とは違うのに、わざわざ主義と主義の

ぶつかり合いの狭間に撃って出たのですから無謀以外の何者でもありませんでした。つまり勝ち目のないという結果がでていて、はなから負けると思って居る人をトップに座らせるほど日本は連戦につぐ連戦で人材をなくしていました。その上に官僚が国民の税金を軍部に吸い上げる源泉徴収法の完備をし更に国威発揚で軍事製品に変わる金銀の供出。国民は泣く泣く「お国の為なら」と財宝を供出し更には齒の詰め物にしていた金までお国のために献上しました。一般庶民達は『お上のすることに間違いはない』と思っていましたが、その心がこれほど仇になったことはありませんでした。

人が人を育てるのに、その人が居ないのでから人が育つ道理がありません。

歌の上手い先生と友達に囲まれていれば私でもいくらかは上手くなります。歩いて直ぐのところに海があって「体育と云えば水泳」という環境で全く泳げない子は稀です。山が近くにあって雪があって「体育といえはスキー」で遊びもスキーでスキーが出来ない子を捜すのは困難というものです。

宮本武蔵は何故、強かったのか。彼の最大の長所は「強い相手とは戦わなかったからだ」との話がありますが戦わずして相手が自分より上だと見極め戦わないという眼力こそ戦いになくてはならない兵法の一番ではないでしょうか。家康は正妻・築山殿と長男・信康を信長の命により殺しています。何故だったのか。それは時の人・信長と戦っても勝てなかったです。家康は「堪忍は無事

長寿の元。己を責めて人を責めるな。怒りは敵と思え」と云っています。負け戦が決まっているときは妻と息子(当時の跡継ぎ)を死なせても家臣(今なら国民)を守ったそうです。結局、大東亜は武蔵も家康も一人として存在しなかった。当時のトップが己のプライドを最優先させて無謀な戦いの道を選んだという事になります。

後生に残すべき教訓があるとすれば「戦に必要なものの第一は人である」道成る国を、どうしても主義で語れと云われれば私は迷わず人物主義だと答えます。しかし後生に何の検証も教訓も与えずに世界最強の兵隊(市民を含む)と賛辞されているのに教科書では日本兵をヒトラー以上の悪人として教えている国が日本なのです。「お前達のお爺さんは悪かったのだよ」と言って人物を育てようと云うのですから、これ以上の狂気の沙汰はありません。今頃、官僚たちは民が値上がりラッシュで悲鳴を上げているときに「居酒屋タクシーが駄目なら次は何でいこうか」と考えているのかな。

なぜ第二次世界大戦は起きたのか。その因・縁・果を記します。嘗て大英帝国と云われた現在のイギリスは植民地を沢山もっていました。(6月17日『大東亜戦争から太平洋戦争、次はアジア太平洋戦争？⑰』に詳細)私流に言えばイギリスが本社であり持ち株会社でインド・アイルランド・カナダ・ニューイングランド・ミャンマー(ビルマ)・オーストラリア・香港・ニュージーランド他多数が下請・孫請けと云ったところです。イギリス人はインド人にアヘンを栽培させて船で運んで中国へ。そこで高級なお茶と絹をアヘンと引き替えるのですから、まさに濡れ手に粟です。更に中国人はアヘン中毒になりますから値段が下がることはなく、むしろ中毒者が増えていくことによって大儲けした事になります。

それが講じてイギリスと中国はアヘン戦争になり、無論イギリスが勝って中国は香港を取られました。そんな風にアフリカ・アジアを植民地にして、もっと分かりやすく云えば「白人は偉いのよ。お前達、黒の人と黄色の人は働きなさい(女王陛下の風に云うと)」ということで英国に大が付いて大英帝国です。しかし、そんなことをやっているものですから、天網恢々疎にして漏らさずと言うべきか悪行には天罰で悪因悪果の結果を招いて行きます。

オーストリアの皇太子が暗殺され(サラエボ事件)に端を発した欧州のせめぎ合いが世界大戦にまで発展してしまいました。これによりドイツ・オーストリア・オスマントルコ・ブルガリアの中央同盟国とイギリス・フランス・ロシア・イタリア・アメリカの

連合軍(最後の方だけ、殆ど無傷)と二つの陣営に分かれ激突しました。結論は連合軍の勝利。なかでもアメリカが連合軍に入った一因にはイギリスの影響もあったかも知れません。だって当時アメリカに渡っていった人の6割近くがイギリス人でしたから。推測ですけど、その理由はイギリスは階級社会で上級家庭に生まれた人は裕福な暮らしが約束されていますが中・下級家庭に生まれた人はそうはいかないので自由とアメリカンドリームを求めてアメリカに渡ったのではないのでしょうか。

三国志の中に『二虎競食の計』というのがあります。魏の曹操の配下に荀イク(イクという漢字が出ません) という名の軍師がいました。彼は曹操に劉備と呂布の連係を断つ為に「二頭の腹のすいた虎の間に餌を投げ込めば二頭の虎は鬭いあい一頭だけが残る。しかも両方とも重症だから、そこを狙えば簡単に仕留めることができる」と進言した事から、これを『二虎競食の計』と言われるようになりました。

これと同じようにアメリカは漁夫の利を得たのではないでしょう。だって1776年に建国して（1914-18）第一次大戦終了です。建国後 142年で史上初の世界戦に最後の方にエントリーして勝利です。これですっかり有頂天になり広大な土地で砂糖・珈琲・綿花・煙草を生産して欧州に売ります。所謂、大農園(プランテーション)産業が盛んになっていきました。それで額に汗して働いた？飛んでもない。働いたのは人身売買されて強制的に働かされた黒人の末裔でした。アフリカ③ 5/31に詳細）黒人に働かせて欧州に売り、その莫大な利益をどうしたかというと投機マネーに変えていった訳です。

つまり時代は大英帝国から大英帝国(私の作った造語)へと変移していきました。その根幹にはキリスト教の『労働は罪である』という思想があったのかも知れません。因みにユダヤ教は「労働は神から命じられた神聖な行為である」と説いているようです。私はキリストは商業とか商人が嫌いだったのではないかと捉えているのですが、まだリサーチした訳ではないので分かったらアップ

したいと思います。

その点、日本は「額に汗して働く事は尊いことである」という世界にも希な感性を持っています。『働く』という漢字は、人が動くと書きます。人偏（ニソバ）は、神がたてた法であり、つまり神意にそう事が働くことだという説もあります。それではユダヤと日本は同質なのか？私は違うと思っていますが資料不足で言明できません。ただ一点挙げると日本は古来より農耕民族だと云われています。農耕民族の日本人は種を蒔く時期、実る時期、収穫する時期を知っています。種を蒔く時期を間違えては収穫できません。常に天の恵みを感じながら熱い汗を流すことに喜びを感じた民族でユダヤ人は、そうした事はできませんでした。彼らは流民の民だったからです。よって金融という現金による商売、つまり現金なら何時でも持って逃げられる。しかし金融業ですので、この時の汗は冷や汗です。

余談ですが日本は四方を海に囲まれていることから漁業の面でも、その時々によって獲れる魚の種類は違います。漁師は常に海の荒れ具合・天候・台風などを見極めなければなりません。つまり何よりも経験を積んだお年寄りをたてることが重要になります。敬老の精神が発達したのではないかと思っています。

さて、いずれにしてもアメリカは大米帝国として労働は黒人に任せ自分たちはヨーロッパに売った農産物で大いに潤い自由の延長である経済をゲーム化し現在の株式市場を形成していく事になります。一方、大農園では機械化が進み、より多くの生産が出来るようになりました。第一次世界大戦後、ニューヨーク株式市場で

は信用取引や短期売買で巨万の富を得る相場師が現れました。しかし投機は常に実体よりも行きすぎるという性質を持っています。

10年も最高値を更新し続けてきたNY市場に1929/10/26 暗黒の木曜日（ブラック・サースデー）下落率12.8%の日が訪れました。労働の伴わない株への投機熱がある日突然、真っ逆さまに落ち込むことになった訳です。その10年後に第二次世界大戦が勃発。つまり第二次世界大戦の引き金はアメリカのブラックサースデーだったことになります。

欧州には持つ者と持たざる者が混在していました。それは植民地です。(6月16日『大東亜戦争から太平洋戦争、次はアジア太平洋戦争？⑰』のブログに詳細)イギリス・フランス・ロシアなどは植民地を持っていたので恐慌に見舞われても要するに下請を叩いて利益を吸い上げる道があったのですが、ドイツ・イタリアは植民地を獲得していなかった所以で状況は深刻でした。そのドイツ・イタリアと手を組んだ日本。類は友を呼ぶと言う法則に従えば、ごく自然の事だったのではないのでしょうか。

そこで植民地を持っている国と持っていない国が対立し持たざる国であったドイツ・イタリアにはファシズムという思想が生まれました。

これは数年前に世間を騒がせた村上ファンドの村上さんに顕著です。村上さんは「土地を手に入れるには膨大な書類と時間と手間をかけても思い通りにはならない。だから土地を沢山所有している会社の株を買い占めれば良い。そうすれば、その会社の持っている土地もこっちのものよ」ということで阪神電鉄株を40%近く買い占めた訳です。

余談ですけど、ライブドアのホリエモンさんは村上さんから、そうした手口を聞いて「フジテレビを買い占めたいが資金がない」と云ったとします。そうしたら村上さんが「フジテレビの親会社は日本放送(日テレと混同しますが、4ch系列ではありません。8chフジサンケイグループです。戦後はラジオが全盛で、その後に上場した子会社のフジテレビの方が大きくなってしまった訳です。他に富士電機HDと富士通の関係 NTTとNTTドコモの関係があります)だ。だったら日本放送株を買い占めれば間接的にフジテレビを牛耳れる」と囁いたのではないのでしょうか。

『講談師、見てきたような嘘をつき』のようですが多分実際にあった事だと思います。ホリエモンはフジテレビを買い占めてテレビで商品を販売する。それをネットを通して、つまりライブドアが仲介すれば楽天に勝てる。何しろ『トンビ(楽天)に油揚げ(当時の近鉄)もっていかれ』恨み骨髓でしたからね。後に楽天の三木谷さんも6chのTBSを買い占めましたよね。

そう言うわけでホリエモンさんは時間外取引で日本放送の株を買い占めて大騒ぎになったことは記憶に新しいと思います。村上さ

んとしてはホリエモンさんに、先にやらせて様子を見てからと思っていたのかな。皆さんヒルズ族でお隣同士ですから、かなり親しく交流していたのではないのでしょうか・・・？

又、脱線してしまいましたね。そういう訳で「植民地を沢山もって居る国を傘下にすれば芋づる式にアジア・アフリカの国も手に入るじゃん」という事になりますけど、そんなこと言ったら戦争に必要な大義名分が立ちません。そこでファシズム政権がうまれます。つまり「共産党かぶれ」というより「連合赤軍」の方が何となく政治的で論理があって「俺たちは凄いイデオロギー持ってたぜ」と思うじゃありませんか。そこからドイツでは国家社会主義ドイツ労働者党、ナチス・ドイツ右卍（ハーケンクロイツ）ハイル・ヒトラーと言うわけです。

これがあると便利ですよ。何だか分かんなくなっちゃったけど、格好良く終わりたい時に「ハイル・ヒトラー！」という。それを見た民衆は「（そうか俺も）ハイル・ヒトラー！」それじゃあ、みんなで「ハイル・ヒトラー！！」そうして拍手を全員すれば格好がつきますよね。これを考えた人って誰なんでしょうかね。元はローマ帝国の敬礼だった物をムッソリーニがイタリア軍で取り入れ「これ良いよ」といったかどうか分かりませんが、ナチス・ドイツが取り入れたようです。

ヒトラーの配下には宣伝大臣・プロパガンダの天才とも云うべきゲッベルスという男が居ました。ユダヤ人が営むユダヤ商店をボイコット、そしてユダヤ人追放運動の張本人ですから、この人が「ハイル・ヒトラー」の産みの親なのかな？

さてアメリカといえは当時、農産品は余剰在庫が増えたものの、口にする食べ物は一週に消費することは出来ないで捌ききれなくなり投資したお金は露と消え余ったのは農産品だけという事態に陥りアメリカ経済は失速していきました。第一次世界大戦で疲弊していたヨーロッパも経済が逼迫。経済とイデオロギーが一つならまだ良かったのですが世界経済が落ち込んだときソ連はマルクスの説いた共産主義思想を政治の中樞に於いたマルクス・レーニン主義が台頭させていましたからいけません。今なら差詰めWindowsかリナックスLinuxかということになって、アプリケーションソフトが機能しなくなり混乱の一途を辿りました。

しかし、社会主義というのは人間がロボットなら機能するかも知れませんが「みんな金メダルが欲しいだろうから俺は実力では取れるけど譲ってやろう」という人がいないように「ドーピングしても取りたい」といのが人間です。分け前を分担する官僚・公務員・議員の着服・汚職が消えることがないことは日本の新聞・ニュースで毎日証明されています。しかし、これを論理的に言われると大抵、論破出来なくなります。

例えば、私が聞いた話ですが昔「銀行は作れない、潰れない」といわれていた時代がありました。そんな時、共産主義者の友人に「富士・三菱・住友・三井が凌ぎを削っているが、いずれ勝ち残るのは三社の内のひとつだ。それなら最初から法律で一つすれば良いじゃん。無駄がないよ。その方が、お互いに凌ぎを削ってコストかけずに済むんだから効率的だ」と云われて反論出来なかったそうです。彼は「とても理路整然としていて反論できなかった」と言っていました。

しかし、それは今なら云えますよ。住友と三井が合併して一つに、富士も合併して行って、みずほに。そうしてヨーカ堂の銀行とか市民銀行とか東京都だって銀行を作りました。果ては欧州・アメリカの銀行まで。しかし、その当時は「銀行は法律で作れない。その代わり潰さない」という大蔵省の護送船団方式の最中でした。30年後 日本は非武装なのか否かを今から言える人はいないように未来予測は法律改定で話が全く変わってしまいます。だから、理論ではなく実証を見て判断するしかありません。

長嶋さんが選手だったときに「社会党の天下になったら野球、野球っていっておられるかどうか、わかりませんか」と発言しましたが誰も明確に答えられませんでした。故なら ソ連も中国も北朝鮮も社会主義国は野球をしていませんでしたから。余談ですが社会党もこの記事に対してただちに「そのようなことはしない」といったコメントを出し赤旗も否定したそうです。

人間は単純で「右が駄目なら左だ」ということになりがちです。日本で云えば天皇制がこれに当てはまります。先人が三千年にも渡って栄として築き上げた天皇制は第一次大戦・日清・日露の時は問題にならなかったのに、たった一度大東亜戦争で敗戦したら、アメリカGHQの方針も手伝って主権は天皇から国民、いわゆる主権在民になり今でも天皇制の是非が表面化するとき天皇の戦争責任という言葉となることがあります。

田原さんがサンデープロジェクトで共産党の志位さんを招いて「マルクスが再び脚光を浴びている」という発言をしましたでしたが私は否を唱えました。(5月24日 サンデープロジェクトを見て)つまり「資本主義経済が駄目なら共産主義」という論理は分かりますが「時代に逆行してどうするの」ということです。

マルクスがコンピュータ社会到来を看破していたというのであれば別ですが、もうすぐ2000年になるという年にコンピュータの2000年問題を誰も笑えなかったように主義というのは時代を到底追い越せません。いずれにしてもアメリカ発の金融危機がヨーロッパにまで吹き荒れ東洋へと向かってきました。

当時、日本は1923/9/1関東大震災（死者行方不明者142,800人）昭和金融恐慌（昭和恐慌）によって弱体化していた日本経済は世界恐慌発生とほぼ同時に行った金・解禁と生糸などの輸出が落ち込み危機的状況に陥っていました。株の暴落により都市部では多くの会社が倒産し失業者があふれ農作物は売れ行きが落ちこみ価格が低下、冷害・凶作のために疲弊した農村では娘を売る身売りや欠食児童が急増して社会問題化。生活できなくなり大陸へ渡る人々も増えました。都会では労働争議、政府は治安維持法を改正、最高刑を死刑にしまして社会主義運動の取締りました。1930年代ブロック経済政策をとる欧米諸国との貿易摩擦が起こり現状を打破するため「満州は日本の生命線である」とし日本は大陸進出へ進んでいくことになりました。

ドイツやイタリアのようなファシズム台頭はなかったものの軍部の発言力は強まり、満州事変 五・一五事件 ワシントン海軍軍縮条約 ロンドン海軍軍縮条約の破棄 二・二六事件 日独伊防共協定の締結、そして日中戦争、第二次世界大戦に突入していく道を歩んでいきます。

火垂るの墓を書いた野坂昭如さんが「人間は食べるものに窮してくると絶対に人には分け与えない」といっています。それと同じで裕福なら与えられますが皆が貧しくなると奪い合いとなり、行き着く先が戦争となります。それにしても第二次大戦の引き金が世界で一番富める国の投機ゲームの成れの果てだったという事は現代の人であるなら肝に銘じておくことが必要ではないでしょうか。

現在、日本の自給率は40%を切っていると言われています。当時のような満州国建設という一点突破、全面展開の愚策を選ぶことは出来ません。自給率を高める努力しても直ぐに80%にする事はできません。それでは、どうすれば良いのか。私の考えは戦争放棄の善し悪しは兎も角、世界の国で たった一つ現実に原子爆弾を二回続けて落とされた国の子孫として一番、説得力ある平和宣言をして武力体質から安心できる情報基地局の役割を日本に与えて貰うように努力することです。

情報革命・ネット革命の最中であって情報を守るセキュリティとして個人情報保護法案が通ったのと引き換えに規制がかかりました。例えばC型肝炎の認定を得るために元患者さんが自分のカルテが欲しいため病院に連絡したところ「カルテが破棄されていない」という時に「じゃあ私の担当医の鈴木（仮名）先生の証明があればいいので変わってください」「既に退職されています」「じゃあ連絡先を教えてください」「それは個人情報なので申し訳ございませんが教えられません」という事でC型肝炎の患者

としての認定が得られないという深刻な問題が起きています。既に皆さんもこれと似たような弊害をうけていると思います。

つまり一人一人の個人の尊厳を守るという大義名分を貫けば実は個人の資格さえ奪いかねないというマイナス要因の方が大きいという問題が、もう既に起きているのです。こうした支障が大きすぎるために「どこか安全というものを保障している処に情報を預ける」と考えを提案した場合「戦争に利用しない」という大前提があれば、それが一番の信用になるわけです。それを国を挙げて管理できる国。それは地球上にただ一国、日本に於いて他ならないとアピールAppealすべきです。

子供達への最大の教育は「情報を悪用してはならない」を日本にとって情報管理という生命線となる産業育成の為に徹底する。国はこれを国策に近い形で指導徹底していることを公明正大にし世界の信用を勝ち取るのです。

その為には日本は原爆を二個も落とされ世界初の未曾有の大虐殺にあった先祖への思いであると訴えるべきだと考えます。よって、どのような経緯で原爆が落とされたのかという本当の実際の真実を調べ上げる事が根底になれば、この制度は絵にかいた餅という事になります。

具体的に云えば国家中枢の情報基地を日本に持ってきて貰う。「それは国連のする事だ」との意見があるかも知れませんが、そこにどんな思惑の人が出入りするとも限りません。将来のサイバーテロリストに備えるためには国連が破壊されても日本があるというバックアップの保存基地でもいいではないですか。兎も角「

日本人は重要な情報を戦争には利用しない。何故なら日本国憲法で戦争放棄を謳っている信義の国民なのだから」と誰か国会議員の先生が言ってくればいいのです。

その為には今すぐにでも日本の少子化の最中にいる子供に「行列の出来る安全を提供する日本モール建設に尽力を尽くせ」と云えば嘗て国のためには自分の夢も捨てて死んでいった父や祖父の孫やひ孫です。必ずやってみせる筈です。だって日本男児なのですから。

アジア・太平洋戦争になるかもしれないと知り「こんなことで良いのか」と思い当初は3本くらいアップする気持ちでいたら今回で33本目です。余程この問題が好きなのかと思われているかも知れませんが今、記したように何でこんなに書いて居るんだろうと自分でも首を傾げています。何か力が働いているのかも知れません。

そんな筈はない。私のブログ程度で何が変わる訳でもないと思っているのですが最近「これは真剣に書かないといけない」という気がしています。しかし何故、真剣に書かなければいけないのか分からないまま書いているという心境です。とにかく終わろうと思うと気になる題材が浮かんで来るから不思議です。私は心がけている事があります。それは「私のブログを読んだ人に元気になって欲しい」ということです。ですから今、書いているブログは、その意思に反しています。タイトルも変えようと思うのに、どうも変えられません。

フランス人のシャンソン歌手でダミヤという女性歌手が居ました。彼女が歌った『暗い日曜日』は発売禁止になりました。この歌を聴くと暗い気持ちになって自殺者が後を絶たなかったからです（明確な因果関係が実証された訳ではありませんが）そのように絵でも音でも文章でも元気の源にもなりますが、それ以上に落ち込ませることも可能です。同じテレビなのに涙ぐむ自分も居れば笑い転げる自分もいるのと同じ事です。

私達の祖父・祖母、或いは曾祖父・曾祖母の時代に生きた人は、

どんな人々だったのでしょうか。NHKの番組で戦前のモノクロフィルムが流れるのを見ると、みんな着物を着ていて何故か男性は殆どの人が帽子を被って夏だと殆どの人が扇子を持っています。その名残なのか昭和初期の映画を見ると着物から男の人は背広に替わっただけで相変わらず帽子を被ってネクタイにはネクタイピンを付けています。そしてポケットに全員と言ってよいほど扇子を指しています。しかし現代の男性は帽子も扇子もしている人は居ません。

どうしてなんででしょうか？最近では昭和30年代ブームとされていますが、それは現代の人よりも日本人を感じるからではないでしょうか。テレビもない、あるのはラジオ。蛍光灯もない白熱電球での生活。みんな早く寝て早く起きて、ちゃぶ台で一汁一菜の食事をする。毎日代わり映えのない生活で旅行なんて一生に数回しか出来ない。家族で六畳二間もあれば良い生活。みんな慎ましく真面目で質素で贅沢なんて殆どしなかったのではないのでしょうか。西郷さんの弟(三男)西郷従道は明治政府の要人で海軍の基礎を作った人でした。その従道が長野の小谷町にある山田旅館に逗留した際、温泉に入り食事出来る喜びを「嗚呼、こんな贅沢をさせて貰って申しわけない。きっと良いご奉公(国に)させてもらいますから」と云って数日滞在したようです。そうして余程申し訳ないと思ったのでしょうか。世話になった旅館の人達に書を認めました『勞窺逸居』(いつきよろうをうかがう)――現代訳ですと（今は、ここで無為に過ごしているようだが、それは将来に備えて思いをめぐらす大事の時」となります。明治の要職に居た人なのに実に質素で清廉で、もしかするとこの時が最高の贅沢なる至

福の時だったのかも知れません。その後、従道さんは陸軍を創設し海軍の基礎をつくり海軍軍人で初めて元帥の称号を貰いました。

今、日本は20年にも及びそうな不景気が続いています。年間1730万人が海外旅行をしています。東京都の人口が1250万人ですから不景気を考えると理解しがたい数字です。西郷従道の時代は、その時代を生きた人しか分かりません。たった150年前に生まれた人が今の状況をみたら「みんな宇宙旅行に何回も行っている」と思うでしょう。この様に日々の生活の中で忘れていきます。だから忘れないように、これだけは忘れてはならないとするものを当時の人々の感慨が分かるようにして歴史に記しておくことが重要です。左甚五郎の彫刻や横山大観の絵を素人が手を加えたなら三文の値打ちもなくなってしまいます。まして日本の歴史は、その時代を生きた人の息吹の結集です。過去に遡って『歴史をいじってはならない』と思います。

『賢者は歴史に学び愚者は体験からも学ばず』と私は考えます。賢者は、きっとありのままの真実の史実から何かを感じ、これからの時代を見据えます。しかしそれを改竄したら見えなくなります。まして『日ソ不可侵条約』を『日ソ中立条約』に改竄するように変える事は歴史への暴挙であり、その時代を生きた人々への畏敬の念さえも踏みにじる行為だと思っています。

大東亜戦争から太平洋戦争、次はアジア太平洋戦争？34

08/06/20

ボタンの掛け違いという言葉があります。最初の一つを間違え違

和感を感じた頃には、もう殆ど終わっていると云うわけです。特別に悪いことをしたわけでもないのに 毎日同じことをしてきたのに、ある日から狂ってくる。個人にそうした事があるように、国にも同じ様なことがあると ここまで書いてきて 今 そう思っています。

中国は蒋介石と蒋介石より三歳年下の毛沢東との覇権争いがありました。蒋介石は国民党、毛沢東は共産党(紅軍)として戦いました。毛沢東は善し悪しは兎も角、分かりやすいのですが 蒋介石は良く言えば複雑、悪く言えば怪奇な人で、私は何となく小沢一郎さんを思い浮かべてしまいます。

蒋介石は若い頃はスターリンとも会っていて共産主義を標榜していましたが、最後はアメリカ主義に傾倒しています。孫文(中国革命の父)とは義兄弟で孫文は明らかに日本に亡命していました。蒋介石は成人後日本の陸軍士官学校に入学していたと自身では云っていますが陸軍士官学校の卒業名簿や、その他資料にも名前の記載がない事から虚偽である事が明らかになっています。そもそも蒋介石の人生については書籍が数多く出版されていますが虚偽の記載も多いそうです(何だか秀吉っぽい感があります。塩商人の息子だったので出自を捏造したかったのかも知れません)

1887生まれの蒋介石の人柄は感情の起伏が激しく、子供の頃学校で一番熱中したのは孫子の兵法。中でも「戦とは、人を欺くことなり」というものですから思想家ではないように思います。

“革命の父”孫文の後を継いで戦った蒋介石には、二人の妻がいましたが二人を捨て権力への階段を駆け上がる為に中国に君臨した宋財閥の三女・宋美齡（そうびれい）と結婚します。1911年の

革命軍による「辛亥革命」によって、大陸を3世紀以上に渡って統治してきた清王朝が翌年崩壊。その上、時代は第一次世界大戦に突入。この動乱にあって蒋介石は各地の革命軍を指導する一方、上海の地下組織で暗躍。しかもこの間、上海の歌姫・姚冶誠（とうじせい）という愛人との間に、2番目の男の子蔣緯国（しょういこく）をもうけていました。

この頃 蒋介石は「人の予測を許さない兵を用い、謀りごとをめぐらし、人の思いもつかない方法で、敵の虚を突くのが知恵のある思慮の極地だ」と言っています。

故郷の妻・毛福梅をよそに1921年に16歳の女学生だった陳潔如にプロポーズ、蒋介石(34)は二度目の結婚をしています。プロポーズの際に「自分の愛を証明するため 指を一本切り落としてもいい」と云っています。

孫文の軍の若きリーダーとして活躍していた蒋介石。ところが、孫文の急死によって、思いがけない事態が起こります。孫文の妻であった宋三姉妹の次女・宋慶齡に蒋介石が再婚を迫り断られるのです。1926年 蒋介石は10万の大軍を率いて軍閥掃討を開始。誰もが「国共合作」で中国革命が達成されたことを疑わなかった。

しかし、蒋介石の軍隊が共に戦った共産党員や労働者に襲いかかったことにより、蒋介石は南京に国民政府樹立を発表。孫文の未亡人の妹でありクリスチャンでもある三女・美齡（びれい）との結婚は、欧州の支持が得られるということ打算もあった。この際

蒋介石は約束の指を墮とさずに先妻・陳潔如を捨てて、財力

を持った宋一族を味方につけました。宋一族にとっても、蒋介石を抱きこむことで新政権の要職に一族を送り込み利権を確保出来ると考えての事だったのでしょう。つまり蒋介石は二人の女性を捨てて(子供まで産ませた愛人を含めると3人でしょうか)宋美齡と結婚した訳です。如何に言葉は重宝かという証です。故に行為行動から分析することが、重要となります。

一方、父親に反発していた長男・蔣経国は15歳でモスクワに留学していましたが、中国で共産党に敵対する蒋介石のことがあり、後に、スターリン政権に人質としてとられることになりました。

1928年、蒋介石は中国全土を制圧。南京を首都とする「国民党政府」の発足を正式に宣言。言論を制圧。共産党員らを次々と逮捕。新妻・美齡は1934年から「新生活運動」となづけられた近代化に取り組みました。スローガンは「奢侈（しゃし）は亡国の母であり、儉約は建国のもとである！」パフォーマンス夫婦は、アメリカから「経済支援」を引き出すことに成功するのですが、その傍ら美齡が身に付ける化粧品は年間400万ドル(5億円)と私的に流用していたようです。

1936年 国民党内部での思わぬクーデター。部下の張学良（ちょうがくりょう）に蒋介石が軟禁される「西安事件」が起こります。しかし宋美齡はアメリカ軍の支持を後ろ盾に、共産党の周恩来に直談判。国共合作(国民党・共産党)で日本軍と戦うことを条件に、夫の釈放を勝ち取ります。モスクワでスターリンの人質となっていた長男蔣経国も父が共産党と和解したことで釈放され12年ぶり27歳の時に故郷に戻ります。しかし、義理の母・美齡

とほうまくいくことはありませんでした。

1943年、宋美齡は夫と共に中国への軍事支援を拡大させるため訪米しルーズベルト大統領との会見に臨みます。二人は熱狂的歓迎で迎えられ夫の通訳にすぎなかったはずの美齡が檯舞台でまんまと自分を主人公に押し上げた瞬間でした。つまり主人公は、この時から蒋介石から宋美齡に変わっていきました。この時から日本は暗雲立ちこめる屋根の下に成り下がります。それは日本の運命が一人の異邦人の女の掌中に委ねられた瞬間かも知れませんでした。

毛沢東と言えば女帝・江青(三番目の夫人)ですが(5月25日 中国四川大地震③ブログに詳細) 蒋介石の三人目の夫人・宋美齡(中国・四大財閥の一つ宋財閥の三女)も強かでした。この女性こそ日本への原子爆弾投下の陰の参謀だったのかも知れません。

中国四大財閥のセレブを越えたお嬢様はアメリカ・ウエルズリー大学卒業のキャリアがあり英語は第二の母国語でした。1943/2(原爆広島投下の二年半前)アメリカ両議会に蒋介石と共に招待され上院でスピーチを求められると当時46歳だった宋美齡は流暢な英語で語り始めました。

自分自身を中国人とアメリカ人の間の深い絆の人であると位置づけ、その例として「皆さんと同じ英語で私は、皆様にお話ししています。その事は 皆様の思いと私の思いとが同じであると云うことでもあるのです」と強く訴え「今日、アメリカの家に帰ってこれた私は とても幸福です」中国人とアメリカ人の共通点を強く訴え、「160年にもわたる伝統的両国の間の友情の繋がりを

誤解によって損なわれてはならない。世界史の中に両国の心の火を消してはならない」という米中両国の親密な同盟関係を訴え「アメリカと中国は熱意をもって協力しあいアメリカの真の敵はドイツではなく日本であることを知り日本という略奪者によって人類を滅亡させる方向に導かないよう、より理想的かつ進歩的な平和世界のための礎を築くことに尽くさなければなりません。そのことは我々自身だけの為ではなく、全ての人類の為に両国が手を取り合うことは必要なことなのです」と宣言しました。そのスピーチは非常に成功だったことから5分間も拍手が鳴りやむことはなかったと云われています。

1943/3/1の『タイム』誌は蒋介石夫人宋美齡の両院での演説を「彼女のアメリカに対する理解は祖国への愛情と融合し、米中両国の関係は兄弟のようなものである」と報道しました。また蒋介石夫人の議会声明は、連邦議会でなされたスピーチの中で「もっとも印象的で効果的なものの一つ」と称され同日の『ライフ』誌にも、宋美齡の議会演説が「彼女はいかに巧みに我々と同じ言語を話すかという点ばかりでなく、その考え方や価値観において、我々と類似しているかという点を明らかに証明してくれた」と強調しました。

蒋介石が「1937年のもっとも優れた人物」として選ばれた際に、『タイム』誌は中国の近代化や民主化における宋美齡の役割を強調し「悠久なる中国文明を再生させ、中国人の道德、倫理、物質文明のあらゆる面において彼女は誰よりももっとも素晴らしい指導力を有する人物である」と論じました。従って宋美齡の訪米に

あたって、全米各地で彼女の歓迎会や講演会の開催に心血を注いだと同時に、宋美齡の訪米をきっかけとして、蒋介石が指導した「自由中国」の様子を大きく宣伝するため、1943年3月1日の『タイム』誌は、その表紙を宋美齡の肖像で飾る事を決めたのでした。

美齡の所へは反日感情を露わにしたファンレターが途絶えることなく毎日数百通も届き、その成果で莫大なカンパ金が集まりましたが宋美齡が私的に流用していたようですから祖国には回らなかったようです。世界の貴婦人・ファーストレディーになった宋美齡は1943/11カイロ(エジプト)会談に参加。ルーズベルト、チャーチルらと共に懇談しています。当然、美齡が恐れ入るほどの日本叩きを訴えた事は想像に難くありません。

それにしてもハワイ真珠湾攻撃パール・ハーバーは馬鹿なことをしました。愚策の中の愚策です。暗号文「ニイタカヤマノボレ ヒトフタマルハチ」は既にアメリカに解読されていてアメリカに利用され最後は宋美齡に悪用されました。これがなかったら「アメリカの真の敵はドイツではなく日本なのです!」は如何に宋美齡だったにせよアメリカを熱狂させることはなかった事でしょう。

1945年の東京大空襲・広島原爆・長崎原爆を宋美齡は小躍りして拍手して高笑いしたことでしょう。さて中国は5・20事件で市民や学生デモを銃弾で血に染めてしまい共に戦ってきた共産党を敵に回し1949年、毛沢東の「人民解放軍」が台湾を除く中国全土を制圧。蒋介石と一族は大陸を離れ、台湾へ脱出しましたが蒋介石が名付けた中華民国は毛沢東によって中華人民共和国へと

塗り替えられました。

朝鮮戦争を機に緊迫した米ソ冷戦の時代に突入。アメリカは台湾を「反共の砦」にしようと工作し蒋介石を「反共のヒーロー」だとマスコミが大々的に宣伝。「チャイナロビー」と呼ばれる一団が居て美齡の姉・靄齡以下の宋一族によるニューヨークでの資金集めのため行脚していましたが、それが祖国・中国いや台湾を潤わせたという証拠はないようです。宋美齡は最近の2003年106歳でアメリカで死にました。祖国中国には帰ろうとしなかったようです。

1941/12/7(昭和16)(アメリカ時間)ハワイ真珠湾攻撃（パール・ハーバー）は奇襲攻撃とされています。国際法で戦争をする時は、事前に戦争をすることを布告する。即ち宣戦布告をすることになっています。日ソ不可侵条約を破ったロシアでさえ形だけのことであったにせよ、宣戦布告を日本にしました。しかし日本は武士道の国なのに敗戦後『宣戦布告もしなかった国』という烙印から逃げられず、日本は断崖絶壁、剣が峰を綱渡りするような交渉が続きました。つまりアメリカ合衆国に対する宣戦布告が遅れ、真珠湾攻撃の後になったため日本が国際的非難を浴び、「リメンバー・パールハーバー」の合言葉と、騙し討ちの汚名と共に米国に参戦の機会を容易に与えてしまった訳です。何故なら当時の大統領・ルーズベルトは「戦争をしない」という公約を掲げていたので「何をしているんだ大統領。こんなことまでされて黙っているのか」と世論を掻き立てる必要性がありました。

日本を描いたハリウッド作品『パール・ハーバー』はヒットしました。しかし実際は日本は宣戦布告を暗号文でアメリカ駐在日本大使館に打電していましたし、同時にこれをホワイトハウスは知っていたというのが今や定説です。多くの人に読んで貰いたいので平たく云うと発信者・日本は、アメリカと戦うために宣戦布告を通知します。勿論、腐っても鯛 武士道の国の人が後ろから袈裟斬りする訳がありません。それでその当時の手順である日本の出先機関のアメリカ出張所の大使館に打電し真珠湾攻撃の30分前には宣戦布告する予定でした。（もっとも宣戦布告が攻撃直

前に行われた場合は同じように国際条約の違反になるそうですが、攻撃前にしたのであれば騙し討ちではありませんよね)

ここからが複雑です。その打電文は今で云えばメールのようなものでカーボンコピー(CC)のように直接アメリカがモールス信号を傍受していたことになります。これでは全て情報が盗まれてしまいますので暗号で送ります。例えば『ヨセヤゲウコヲカリメア』と言うようにモールス信号で打電します。これをホワイトハウスが傍受できたとしても解読する事が出来ません。そこでアメリカの要人が日本大使館の例えば一等書記官に「いちいちお前を呼び出すのは億劫だ。暗号解読のマニュアルを教えろ」と云ったとします。云うはずありませんよね。

アメリカの要人は、何かと嬉しい事を云ってくれます。「日本じゃあ、羽が伸ばせないだろう。どう一杯」に始まって「情報売ったら悪いようにはしない」とか「出世させてやるとか」口説いてくるわけです。結論から云うと私は大使館職員の中にがアメリカに懐柔されていた者がいると思っています。そこで、職員が日本を裏切り宣戦布告を遅らせます。無論、そんな単純な事ではありませんが、要するにそういうことなのです。それで実際には字数が多かったのですが日本の宣戦布告文が打電されて来たときに大使館と同時刻にモールス信号はホワイトハウスにも傍受されているわけです。この当時はモールス信号ですから傍受は簡単だったと思います。既に解読要領も知っているわけですから『ニイタカヤマノボレ ヒトフタマルハチ』は12月08日(日本時間)に真珠湾を攻撃してくると知るわけです。

ここからが、日本とアメリカの対応が違うところです。これをラ

ジオで公表すれば日本は宣戦布告の手続きをしたことになります。
。戦略国家のアメリカは

①モールス信号を傍受しなかった事にします。

②日本大使館 既にアメリカのスパイになっている誰かに連絡して、まさか受信しなかったという訳には行かないから、アメリカ政府に書記官が届けるのを意図的に遅らせるように命令します。

今で云えば社会保険庁が年金番号を入力して、名前を確認して入金金額を叩くのを人差し指で一つ一つ解読入力すれば全体が遅くなります。

③そして最後のページは一番重要だから さらに故意に遅らせる

④こちらにもって来るのは、日本が真珠湾攻撃をしてから持ってこいと命令をします。

⑤攻撃後に届いたとすれば 日本は奇襲攻撃をしてきた。卑怯な国というレッテルと判定を当時の国際連盟が認定する。

これを日本大使館はしたのか、しなかったのか？ ここで「そんな事はしなかった」という見解の人より、したとしか思えないとする人の方が遙かに多い訳です。何故か因・縁・果の法則に従えば、その時は分からなくても後になれば実証が現れる事があります。

敗戦後、日本にGHQ（占領軍最高司令部）が入ってきて統制を牛耳る訳ですが問題の職務怠慢・汚職をした日本大使館の職員であった奥村一等書記官をGHQは通訳として活用しGHQが引き上げた後には事務次官に出世しました。在る意味、国賊ともいえる程の職務怠慢を犯し昔ならば「その罪万死に値する。お家断絶は勿論 市中引き回しの上 打ち首獄門京の三条河原でさらし首」が当然であるにも関わらず何らの刑にも服していないどころか官僚最高位の事務次官に座るほどこのご出世を遂げたのだからあきれれます。

何しろ日本を売ったかもしれない男達は何らの罰も与えられずに最高位ですから一高、東大、学士様(武官・文官達)と言われた方達の狂乱乱舞の地獄絵巻物語さながらです。一般市民と名の無き兵士は士・農・工・商にも入れない穢多エタ（汚れの多い職業 例⇒牛を、と殺することを生業）非民（人に非ず）扱いといって何ら過言ではありません。こうして書いていると悉く因・縁・果の法則が起きないのが不思議です。

公務員の使命は国民の生命・財産を守る事にも関わらず今も昔も官尊民卑のまま昔は命まで脅かし今は生活を脅かしています。不

気味な顔をした得体の知れない、まな板の上の上級公務員資格と書かれた魚を卸すのに裁く包丁を日本人が選出した日本の公務員による日本人の為の日本人の公務員とすると切り口がギザギザで綺麗に斬れません。魚を持ち上げると切れないところには矛盾と書いてありますが裁く包丁を日本人の日本人公務員によるアメリカ人の為の日本の公務員という切り口にすると全て納得のいく切り口になるのです。

『事実小説よりも奇なり』という名言がありますが日本有史以来の大惨事であり現代史の中に巨悪のミステリーが未だ何らも解明されずに封印されたまま存在しているようです。そしてそれは流れる歳月の中で有耶無耶になっていきます。先人が置いた黒い箱の賞味期限も消費期限も終わったのでラベルを剥がす手。「それでは中身がなんだか分からなくなるでしょう」というとニタッと嬉しそうに笑う不気味な顔が見えるようです。恐怖に戦けば先人が救われない。逃げれば後生に真実を伝えられないのなら貴方ならどうしますか?日本人だったら日本男児だったらどうしますか?

こういう実話があります。

今から40年ほど前、田所（仮称）さんは商談をしている最中に突然、商談相手の社長さんから「アンタは日本が韓国にしたことをどれだけ知っている」と聞かれ「え？よくは知りませんが」と答えると「そうだろうな。何にも知らないんだ」と云われました。田所さんは事務所に戻って、この話を平井（仮称）社長に報告するといつもは温厚な平井さんが激怒して「どうして謝った。謝ったら全て日本人が悪いということになるんだぞ」と言われました。田所さんは「だって、あんまり怒るし、それに勉強不足で知らなかったからその事も悪いと思って謝りました」「だから駄目なんだ。建築屋が建築の事を聞かれて分からなかったら謝罪するべきだが教わっていない事まで謝るのは日本人の間だけだ。教育が教えるべき事を教えないから誤解が誤解を増幅しているだけだ」と云われたそうです。

私はアジアの平和の為にも日本・韓国・中国が友人になる必要性があると思っています。

日韓関係の人で思い浮かぶのは伊藤博文です。彼は入塾した松下村塾で吉田松陰という偉大な師匠と出会い、その生徒であった高杉晋作が結成した奇兵隊で高杉と共に戦い伊藤は後に高杉晋作を『動けば雷電の如く、発すれば風雨のごとし』と称しました。偉大な先生と偉大な先輩から感化を受けた伊藤博文は鉄砲の弾一つ打たずに朝鮮を合併しました。従って日本は朝鮮を占領したのではありません。仲よく手を握って合併したのです。それも当時

の韓国皇帝の未亡人に頼まれたからでした。如何に伊藤であっても朝鮮側にその気がなければ日韓併合は出来ませんから。要請を受けた日本は韓国の皇太子・李垕（リギン後の 李王）に李方子（り まさこ・朝鮮名イ・バンジャ 旧姓：梨本宮方子）という皇族の女性を嫁がせました。彼女は両国の架け橋として旧大韓帝国の李王家の李王・李垕の妃となりました。この方は昭和天皇のお妃候補でもありました。

方子さんが自らの婚約を知ったのは避暑の為、梨本宮家の別邸に滞在していた時に手元にあった新聞を何気なく開いた時でした。

（勿論、それまで何の話もなく相手の人の事も知りませんでした）女子学習院高等科卒業後の1920年、李垕と結婚。これは日韓併合後の最初の国を挙げての慶事でした。

日韓合併以前の一般朝鮮人の生活は、実に気の毒なひどいものでした。当時、朝鮮の山はぜんぶ真っ赤なハゲ山で大雨が降れば洪水になり田畑が荒らされ、どうにもならない状態でした。そして現地の人たちは蟻（あり）の塔のような土を粘って造った家に住んでいました。それはオンドル（台所で煮炊きしたときに発生する蒸気や煙を居住空間の床下に通し暖房として使用する設備）の床の上にシブ紙をはりつけた粗末な家でした。日本は日韓合併条約後、寺内正毅元首相や元警視總監を勤めた丸山鶴吉など多くの優れた人を送って朝鮮の改善に努めました。

日本の内地と同様に、朝鮮全土に義務教育制をひき生活の向上を計って農工業の振興に努力を払いました。その結果、朝鮮の人々の生活は向上し、しまいには朝鮮の米が余って日本へ送るまでに豊富になりました。また日本の技術者が渡って改良に改良を加えていき日本米より良い米が朝鮮で出来るようになっていきました。ところが大東亜戦争で日本が大敗し、朝鮮から手を引いた後は元に戻って、朝鮮では米が不足し、今度は日本の余剰米を逆に朝鮮へ送る状態になっていきました。そうして日本と朝鮮の生活水準に大きな差が開いてきたので当時、多くの朝鮮の人々が暗闇に乗り集団となって日本に密航して来ました。

従って欧米人が植民地でとった政策と日本が朝鮮と仲良く合併した後、行った政策は全くの正反対であることが分かります。欧米諸国の場合は、いつまでも現地人を隷属させるために植民地で教育をしませんでした。しかし日本の場合は、朝鮮の人々が向上す

るようにと、日本人と同様に朝鮮の人々に教育を受けさせ産業育成にも尽力を尽くしました。

これは今の北朝鮮を見れば明かです。北朝鮮の金日成キム・イルソン 金正日キム・ジョンイル親子は戦後全ての政権期間をこの二人が握っていますが、日本の戦後の様な食糧難で高官達は丸まると超えている一方で、一般市民や子供達は貧困と飢餓に喘いでいるのが現状です。しかし日本が朝鮮を併合していた時期に日本の政策で今の北朝鮮のようになったという資料はありません。つまり今から60年前の世界的品不足・物不足の時代であった日本の政策の方が現・北朝鮮の政策と比べものにならないほど善政であったと言えることは確かです。

それでは何故、今日、多くの日本人は日本がかつて朝鮮を搾取したと思い自責の念に囚われているのでしょうか。それは日本が朝鮮を併合した時と日本が朝鮮から引いた時期の一番の違いを見れば明らかになります。日本が韓国併合して、まず最初に何をしたか。当時の朝鮮の人々を各地で牛耳って搾取していた日本でいうところの豪族を日韓併合により、その地方の豪族・権力者達を日本部隊が皆、満洲等へ追っ払いました。分かりやすく言えば朝鮮の当時の経済の悪循環の元・癌細胞であった豪族達を切り取ったのです。これにより元々優秀な朝鮮人は今度は軌道が修正され良くなっていったのです。しかし戦後、日本が追っ払った豪族達が戻ってきてしまいました。彼らにとっては恨み骨髓の日本人です。又しても搾取を始め「悪かったのは日本人だ。悪政をした」と牙を向いてネガティブキャンペーンを行ったのです。

金日成（キム・イルソン）金正日（キム・ジョンイル）親子がその典型です。ヒトラー、ムッソリーニ然りです。人間、これやられると実に弱いんですね。嘘も100回、1000回と繰り返されると真実に思えてきます。

例えばロダンの『考える人』という像は知らない人はいないほど有名です。しかし、この像は本来「考える人」ではありません。つまりロダンが考えたメッセージとは全く違う解釈を全世界の人達が信じている訳です。ロダンが作ったのは「地獄の門」(高さ6m)という巨大な彫刻物で罪人が地獄に堕ちていく姿がメインになっています。そして、それを眺めている10数名の内の一人が「考える人」で本来は単体の作品ではありません。しかし、これを鑄造したリュディエという人が「考える人」と名付けてしまったので作品の中の一体だけが有名になり単体ではないのに単体のように、そこだけクローズアップされた訳です。つまりロダンは罪人が地獄に堕ちていく姿と、それを見ている人々を描いているのであって『考える人』を描いた訳では、なかったのですが作者の意図とは違う解釈が世界をまかり通っている訳です。

柔らかい脳を持つ子供にロダンの『地獄の門』の作品の一部を取り出した偽物を「これはロダンが作った『考える人』だよ」と教えられ、それが世界中で浸透しているのが現状です。それを聞いた子供は、その時見た大きさが1mの模造品だったら、その大きさを本物の大きさと思うでしょうし30cmの像であれば30cmを本物と思うでしょう。（でも、ちょっと小さいな）と思い大人に「本

物は、どのくらいの大きさなの」と聞きます。聞かれた方は（西欧人は大きいけど座っているんだから・・・）「1m5、60cmじゃないかな」と言えば子供は（そうか大きくなったら本物を見てみたいな）と思うかも知れませんが、それはおかしいのです。だって本来「考える人」という作品を作った訳ではないのですから。

もう一つポピュラーなところでは悪者を退治して印籠（いんろう）を出すと皆が平伏する『水戸黄門』と云えば徳川光圀ですが諸国漫遊したという話は一切ありません。しかし光圀は大日本史を編纂の為全国各地に家臣を派遣したことから幕末の講談師が「水戸黄門漫遊記」という光圀が諸国漫遊して世直しするという話を作り明治から助さん格さんが登場し、映画・ドラマで時代劇の定番になり昭和50年代にかげろうお銀が見参となります。

しかし生まれたときから水戸黄門見て育った私達は実話だと思って水戸黄門を見ています。「助さん」こと佐々木助三郎は実際は光圀の配下の佐々宗淳が、「格さん」こと渥美格之進ですが実際は配下の安積澹泊がモデルです。無論かげろうお銀は存在しません。しかし生まれたときから隣のお爺さんのように見ていますからね。「控え、控え、控え居ろう！この紋所が目に入らぬか！このお方を何と心得る。恐れ多くも先の副将軍・水戸光圀公であらせられるぞ！頭が高い 控え居ろう～」という台詞も覚えてしまっている訳です。

恐らく、このシーンがなければ今の子供達は「印籠って何？と思う筈です。それと同じで北朝鮮では「憲兵」とか「日本兵」という日本語をそのまま使い日本を貶めるプロパンガンダを行ってい

ます。しかし日本の今の子供達は憲兵も日本兵も逆に知りません。このように生まれたときから20年間もプロパガンダが続けば完璧に「日本憎し」とすり込まれてしまっている訳です。

そして、これは私だけではなく日本中がそうなのでから北朝鮮に置き換えると60年経った今でもプロパガンダによって昨日のこの様に日本を批判するのは、そうなるように教育しているからだと言えます。

従って今、韓国・北朝鮮が日本人に反感を持っているのは教育の産物です。私の書いていることを韓国から来ている留学生の方がいたら検証してみてください。私がここに記していることは学校で教わったことではありません。

（大東亜戦争から太平洋戦争、次はアジア太平洋戦争？⑪

08/06/14）で記したように私の一番印象に残っている先生は「日本人は悪いことをしたんだ」と云いました。そこでどのような悪さをしたのか調べていくと従軍慰安婦の問題が確かにありました。しかし悪政ばかりではありません。むしろ善政の方が多いのです。伊藤博文を暗殺した男が韓国では英雄で伊藤が極悪人という扱いを受けていますが、その因・縁・果の検証が出来ませんでした。当時の海外メディアからは伊藤博文の死を悼み惜しむ声が聞こえます。

一体なぜ日本の国は歴史の検証をしないのでしょうか？

ごく最近、宮崎勤が死刑執行されましたが事件から20年も立っています。殺害された当時の4人の女の子達が生きていたら25歳か27歳です。今頃、結婚をして赤ちゃんを抱いて人生を満喫していたかも知れません。分かりきった凶悪犯の審議には20年もかけるのに国のしたことの検証は、いつ どこで為されたのでしょうか？もう60年以上も経過するのにです。その間、韓国・北朝鮮では全く逆の日本人史観の教育が連綿と続いてきたように思います。

プロパガンダとは恐ろしいものです。「そんなもの」と鼻で笑っ

ている内に癌細胞のように転移していき気がついた頃には偽情報を真実とするようになっていきます。日本人は朝鮮人に当時、西洋が取ったような植民地政策は取っていません。それどころか韓国の皇太子に昭和天皇のお后になっても不思議でなかった人が個人の思いとは別に朝鮮に嫁がれています。これ一つ取ってみても欧州の植民地政策とは明らかに一線を画します。

韓国人は伊藤博文は極悪人であるとし千円札の伊藤博文を嫌いました。伊藤博文（享年68）をハルピン駅で暗殺した安重根を国では「義士」として英雄としているほどですから。しかし伊藤は本来、日韓併合に反対でした。デジタル値で検証してみると日本が朝鮮半島につぎ込んだ資本は現在の価値にすると80兆円以上との試算があります。この額は現在の日本の国家予算と同じです。今でも北朝鮮・韓国の人々から受ける日本人極悪論に対して一切の反論材料も教えないどころか、日本人は悪かったと決め付ける日本の100%過失論教育まで考え積算すると国債の借金残高と同額といってもいいでしょうね。

その上、日韓併合の申し出は朝鮮の王室ではありませんでした。朝鮮併合に賛成する多勢の朝鮮人の中には当時の朝鮮首相・李完用もいました。反日派の群衆に2回も自宅を焼かれた事実が証明しています。それでも彼は「日本の力を頼り韓国を近代化しなければならない」と叫び続けました。彼を中心に最大の政治勢力の一進会は最高時には100万人は居たとされます（最も韓国人は存在は認めて居るようですが数字は認めていないようです）しかし一进会が日韓併合に大きく寄与したことは確かなようです。

よって伊藤博文は「朝鮮を併合しても莫大な出費を強いられるだけで、日本にはそのような出費に耐えられる国力はない」として朝鮮併合に反対していたのです。伊藤は周防国熊毛郡東荷村字野尻（現・山口県光市東荷字野尻）に、農民・十蔵、琴子の長男として生まれ 家が貧しく12歳ころから奉公に出ます。父が萩藩の中間水井武兵衛（後に伊藤直右衛門と改名）の養子となり、下級武士の身分を得ました。松下村塾で身分に一切関係なく教育をする教育者・吉田松陰を知り吉田松陰の思想を現実にくべく行動した先輩・高杉晋作を間近で見ていた伊藤自身が教育の重要性を一番理解しており吉田松陰が農民出身の伊藤を一人の人格者として見たように一切、人種・身分で区別けをしてはならない事は身にしみて知っていた筈です。よって伊藤博文が朝鮮の教育の浸透にも力を入れたのは当然でした。

日本敗戦の1945年までの間に、朝鮮では1000以上の学校が設立されたのは松下村塾の塾生であった伊藤博文の尽力が注がれていた証です。伊藤は当時の朝鮮を独立させようとしてきましたが朝鮮は独立できませんでした。それで日本は朝鮮を保護国としたのですが、もし朝鮮が独立できていれば・・・私は世界の歴史の中でも松下村塾は教育界の大奇跡を起こしたと考えていますので韓国に吉田松陰の思想が広がっていけば本家の日本にも好影響を与えたのではないかと思うと残念です。

松陰が説いた飛耳長目（ひじちょうもく⇒全国から情報を集め正しい眼で真実を探し出す）は現代の教育には一切ない教育理念です。浮世絵・歌舞伎・相撲・柔道と今まで見向きもしなかった日本の素晴らしい伝統を外国で認められると日本人は目の色を変

えて慌てて見直すという習性がありますから飛耳長目の精神を競って各学校が取り入れたのであれば、その後の日清・日露はなかったかも知れませんが勝利しても驕ることなく「大東亜戦争は飛耳長目の精神から反する」という結論を素直に受け入れたかも知れません。

前述した様に日本が敗戦すると悪性を施していた豪族達が中国から戻ってきて悪性を又施しはじめた彼らは又しても搾取をしたうえに恨み骨髓の日本人を「悪かったのは日本人だ。悪政をしいた」と牙を向いてネガティブキャンペーンを行いました。金日成キム・イルソン 金正日キム・ジョンイル親子などが、その典型であると記しました。ロダンの『考える人』を例に取り上げ嘘も100回1000回と繰り返されると如何に真実が腐食・変色していくものなのか証明しました。

ここで一人の韓国人を中心にすると、戦後どのような過程で日韓関係が歪になっていったかが明らかになります。

文鮮明を教祖とする統一協会という組織があります。一般的には桜田淳子（アイドル歌手）さん、山崎浩子（新体操）さんが1992年に韓国で合同結婚式を挙げた事で有名ですが、その組織の中心に居たお爺さんが文鮮明です。彼女たちは、この男を神の様に信じ、この男が決めた男性と結婚しました。

1960年、安保の時に赤化した学生達は岸内閣の日米安保継続に反対して社会党・共産党系に加担し国会議事堂にデモ隊が押しかけ岸首相は実弟・佐藤栄作さんと共に自決まで考えましたが新聞社が「議会政治を守れ」とする社告を掲載したことから流れが変わり参議院の議決がないまま自然成立しました。その後、岸首相は辞任直前に暴漢に襲撃され重症を追わせられた後、責任を取る形で総辞職しました。

一方、朝鮮は北緯38度線で分断され北朝鮮はロシア・中国寄りの

共産主義になり韓国はアメリカ側に別れた経緯から北朝鮮を批判する反共活動が必然の裡となりました。ところが日本はそれまで国と教育現場とが一致協力して軍国主義教育を施していましたが、戦後政府はアメリカを標榜し、教育現場では日教組（共産系）に分れました。当然、子供達は日頃接している教師の思想に染まっていきました。つまり日本の子は共産思想に染まり韓国は北朝鮮の思想に染まる訳にはいかないので勝共がスローガンになっていきました。そこに目を付けたのが文鮮明でした。

文鮮明の本音は「韓国を中心とした世界戦略」でしたが最初からそれを打ち出したのでは潰されます。そこで韓国・台湾・日本を基軸にして勝共連合（原理運動）を作り最終的には国際連合を作り地上から共産主義を排斥しようとする運動をしました。これは自民党に取っては有り難いことでした。兎も角、国が補助している国立大学を始め主要な大学の方が活動は控えめですが赤化していく訳ですから飼い犬に手を噛まれている状態です。ところが若者が頼んでもいないのに勝共運動をして、しかも街頭に出て国民からカンパを募って北方領土の返還運動をしてくれたのです。

しかし、その実体は文鮮明であり、その教えは「韓国は男たる国、日本は女たる国である。その女たる国が男たる韓国に何をしたのか」と洗脳していきます。その根拠は『韓国の王室に日本の皇族である梨本宮方子（まさこ）さんが嫁いできただろう』という論理でした。これに騙された純粋だといえれば純粋な日本の学生男女は「韓国に申し訳ないことをした」として涙を流して文鮮明の考えに従って行くことになります。そうして彼らは、その事を同

輩に知らしめるために集会を開き文鮮明の教義を泊まり込みで洗脳していき高額な壺を売ったりして、その金を韓国にいる文鮮明に送りました。後のオウムの洗脳の走りです。

これは当時『親泣かせの原理（勝共連合）』といってマスコミを賑わせました。ゾンビがゾンビを作っていく現象が起きていたわけですが、勝共連合（原理運動）は連合赤軍やオウムのサリンに代表されるようなバイオハザードを起こした訳ではありませんし、そういった実体が全国民が知ってしまうような時代では無かったため一般的な認知度は低かったようです。しかし実はこの問題は根深く深刻でした。文鮮明思想に洗脳された日本の女学生が毎年、数多く韓国へ渡りソウルで文鮮明が決めた韓国男性と集団結婚式をあげるという不合理な結婚式に佐藤首相や岸元首相は祝辞を送っていました。つまり連合赤軍やオウムと違い日本の中樞さえ騙していた証です。

世界最強の軍隊とは

アメリカ人の将軍 ドイツ人の参謀 日本人の兵隊

世界最低の軍隊とは 中国人の将軍 日本人の参謀 イタリア人の兵隊というジョークがありますが私は的を得ていると思っています。それでは韓国は何が当てはまるのでしょうか。

戦後、初代韓国大統領の李承晩は韓国学生が過激なデモをして暴動化していったことから、アメリカに亡命してしまいました。その後、朴大統領（1963-79在任期間16年）は 軍の抗争で死刑判決を受けた事もありましたが北朝鮮の情報に通じていた事と共産党の内部情報を提供することで死刑を逃れた人物で後にK C I Aを創設します。朴大統領に対しても、初めのうち2、3回学生が起ち上がってデモをしました。世論は学生は純真だと思っているので大衆はこれに同情を寄せましたが朴大統領はその原因を知っていて背後で学生を踊らせている400人ほどの教師を逮捕追放すると、それ以来、学生は暴動を起こさなくなりました。その点、日本の政治家は全学連が暴れても洗脳している中枢を見抜けなかったということになります。

日本に駐留していたアメリカの戦闘機部隊が三沢基地を離れ韓国へ移った時、当時の中曽根防衛庁長官はアメリカが軍事費の削減を目指して在日米軍を縮小するに際し「米軍の使用していた武器を、そのまま日本に譲ってもよい」という意向をほのめかしたにも関わらず「現憲法に反する」という事で、その優れた米軍兵

器を貰い受けませんでした。ところが、これを知った韓国の朴大統領は、すかさずアメリカと交渉し日本から引き払った三沢基地の戦闘機部隊をほとんど無償で受け入れ韓国の防衛をより一層充実させました。

この時点で私の考える世界一の軍隊は
将軍 韓国 参謀 アメリカ 兵隊 日本だというような気がします。

何故かというと朴大統領の軍事政権が16年なかったら北朝鮮の謀略で韓国が赤化し日本が戦場になっていても不思議ではありませんでした。朴大統領はタダ同然で三沢基地で使用していたアメリカの最新兵器を手中に納め北朝鮮に脅威を感じさせ続けるだけの力量があったことになります。防衛庁長官の任務は「谷川に堤防 海に防波堤 国家に国防」を充実させることです。米軍が譲ろうとする武器を、どうして韓国が手に入れるのでしょうか。日本が三沢基地、つまり領土を貸与していながら家賃収入もなく商品製品まで韓国に持って行かれる。過去には伊藤博文が日本は韓国に現在の金額で80兆円も資本を投入して回収は殆どされていない。その上に、これだから訳が分かりません。

さらに両国の為政者の力量をみると日本の政治家がいかに劣っているかが分かってきます。佐藤政権下の日本では莫大な資金と技術を提供して韓国に地下鉄を設置することになりました。さほど必要性に迫られていないのに、なぜ地下鉄を設置するのかというと「来たるべき原水爆戦争に備え地下避難所を兼ねて地下鉄を

整備しよう」としていたからでしたが本家の日本本土には、そのような施設はありませんでした。

また国内であり余った米を支払いの催促なしで、ただ同然の値段で韓国へ輸送しました。韓国では、そのただ同然の日本から輸入米を使ってカキモチを作り、それを日本に逆輸出し日本のデパートで売り出していました。以上のように日本の政治家より韓国の政治家の方が遙かに有能です。

それにしても世界の枠組みが変わったんですね。日本は中国なしでは口に入れる物に始まって、あらゆる面で協調しあっていないと無理な状態になってきました。つまり文鮮明の共産党にかつとする勝共連合は意味を成さなかったわけです。中国は変わりました。いえ変わらざるを得ない状況になったのです。情報が地上波だけでなく衛星放送、そしてネット時代と移り変わると情報統制が取れなくなり中国国民はアメリカの様子も日本の様子も手に取るように分かる時代になりました。つまり豊かなくらしを望むようになったのです。共産主義で豊かな暮らしは得られないとなると人々は資本主義を望みました。人口大国中国を一党支配体制の共産党が抑えられる事は最早できなくなりました。文鮮明率いる御本家も中国と上手くやっていかなければならないと考えているでしょう。何を言いたいのかというと信者が神と祭り上げた文鮮明はたかだか半世紀先の時代も読めなかったという事実が露呈している訳です。仮にも神を自称した男に先見の明が全くなかったという証明です。

北朝鮮は将軍様・金正日体制が一体いつまで持つのか分かりませんが、もし北朝鮮と韓国が併合した時、果たして韓国一国で北朝

鮮を救えるんでしょうか。中国は政冷経熱で経済は資本主義に政治は相変わらず共産主義ですからね。アジアとしては日本がしっかりしないといけないんですが今の政治家に自国に加えて韓国・中国・アジア諸国を牽引していく力があるんでしょうか。

さて因・縁・果の法則に基づき時系列に並べて検証してきましたが分かりやすく手っ取り早く簡潔に記すと「日本は韓国の貢ぐ君だった」という気がします。少なくとも当時の列強の植民地政策とは全く事を異にします。機会があったら韓国に嫁いだ方子妃の事を記したいのですが、要点だけ挙げておくとも方子妃は皇室の出でありながら「自分は嫁いだのだから朝鮮人である」として朝鮮人としての行動をとりました。

戦後の経過を見ても分かるように日本は韓国に優しいです。遡ると伝統とも言えるくらい優しいわけです。だって『冬のソナタ』ブームの時は日本の女性が感涙し思い出のロケ地に詰めかけ今でも韓国のスターが来ると韓国の旗もって空港に熱烈歓迎に出かけるのですから潜在的なものがそうさせるのではないのでしょうか。

海峡というドラマがNHKで再放送されました。韓国の青年と日本の女性を中心に時代に翻弄されるというストーリーでした。日韓の間には個人個人では忌まわしい忘れない事が当然あったと思います。ですが、その事を風化させない為にも過去に遡っての検証は尚更重要だという事になります。本当の資料を双方がデジタルにして管理し出来る限り新鮮に保たせ後生に残す努力を惜しまないようにすれば傷つけ合うことはなくなると思います。

『考える人』がロダンの感慨を離れてに勝手に歩き出したように追跡・調査していけば どこに捻れがあったのか分かります。しかし、その為には韓国人の人の力が必要です。韓国の留学

生の方と日本の学生が調査委員会を起ち上げて二度と再び、お互いが離間しないように強力な礎を作るためにも、両国が真実を知っておく必要性があると思います。できるところから始めていけば大きな広がりになるのではないのでしょうか。そして、そこから日韓新時代が到来し両国が協調し新たな一歩が踏み出せると思っています。

満州王国という発想は、どのようなものであったのでしょうか。

中国の王朝は清王朝で終わりました。清王朝のラストエンペラーは愛新覚羅溥儀（フギ）という人でした。即位したのが1908年。生まれたのが1906年なので2歳で皇帝になった訳です。

この頃の日本の時代背景は

1894-95 日清戦争

1904-05 日露戦争

1908 溥儀（フギ）即位

1910 日韓併合

1914-18 第一次世界大戦

1931 満州事変

1937 日華事変⇒日中戦争

1941-45 大東亜戦争

ですから溥儀（フギ）が即位したのは日清戦争の13年後の日露戦争の後、さらに三年後の出来事です。ですから眠れる獅子と云われた中国に勝ち大国ロシアに勝って日本は有頂天になっていた頃です。ということはロシア・欧州・アメリカは日本を内心では脅威に感じていたのではないのでしょうか。（6月19日 28のブログ）日本は小さい島国で資源もなく人の体も小さい。当時の欧米人から日本人を見れば、中学生くらいの身の丈なのに「どうしてこんなに黄色いのが強いのか？」と思った事でしょう。つまり日本が有頂天だった頃、列強の中には「日本を注視すべし。増長させてはな

らない」とする暗黙の了解があったと思います。

こんな事は教科書では書けませんが、ここは北朝鮮やロシアではないので個人のブログで書くことが出来ます。この様に私はサイレント-マジョリティー Silent majority が世の中を動かしていると考えています。

日本は列強が黒船を並べてくると錦の御旗のもとに一丸に成るために公武合体・大政奉還・王政復古と天皇を中心にして行動する訳です。つまり国民が結束する時、その中心に天皇を据えました。ところが中国は内乱・政変・外圧が厳しくなっても清王朝を守り王朝を中心にはしないわけです。何故なのか?いずれ検証したいと思いますが両国の国民性が違うことだけは確かです。

1924年10月に馮玉祥と孫岳が起こした第二次奉直戦争に伴うクーデター（北京政変）で紫禁城（シヅョウ）を溥儀（フギ）は追われてしまいます。1925年、溥儀一行の身柄の受け入れを表明した日本政府により日本の公館の庇護を受ける事になります。その時、中国大陸への進出を考えていた日本陸軍（関東軍）と接触し、ここから満州国建設の具体案が出てきます。

日本陸軍によって満州事変が発生し、全満州地域を関東軍が占領。張学良は中華民国政府の命で満州から撤退。満州は関東軍の支配下に入りました。 関東軍は永続的な武力占領や植民地化ではなく、日本の影響力を残した傀儡国家の樹立を考え清朝の皇帝で満洲民族出身であった溥儀を「皇帝」に擁くことを考えます。

1910年に日韓併合ですから15年前の朝鮮政策を手本としたと考えられます。西洋の植民地政策とは違うものです。

溥儀（フギ）は1934年に満洲国皇帝の座に就き、康德帝となりました。これに伴い正式国名が満洲帝国となりました。1937年、溥儀（フギ）の弟の溥傑（フケツ）が、天皇家に繋がる名門華族の嵯峨家（旧姓・正親町三条家）令嬢の嵯峨浩（サガヒロ）さんと結婚。つまり朝鮮に嫁いだ梨本宮方子（マサコ）さんと同じ形を取った事になります。溥傑（フケツ）は、これに先立つ1935年には昭和天皇の招待により日本を公式訪問するなど、溥儀以下満州国の王族は日本及び日本の皇族と密接な関係となりました。余談ですが溥儀（フギ）溥傑（フケツ）の一族である愛新覺羅・顯シ（漢字が出ません）は川島浪速の養女となり「男装の麗人」「東洋のマタ・ハリ」と云われた川島芳子です。

さて溥儀が初訪日した際には昭和天皇自らが東京駅まで溥儀を迎えに行くという、日本の歴史上無い異例の歓待を行なっています。なお、訪日を記念して日本政府は記念切手を4種発行。日本国民からも熱烈歓迎で迎えられました。大東亜戦争（太平洋戦争）の開戦により、日本が連合国と戦争状態に入った事から満洲帝国も日本に追随しました。

しかし、日本軍とイギリス軍やアメリカ軍、中華民国軍との戦闘地域から離れていることや、満州帝国の事実上の宗主国である日本と隣国ソビエト連邦との間にあった日ソ不可侵条約ですが。ソ連は満州帝国を承認してはいませんでした。（承認していたとしても不可侵条約は破っていますので、それほど意味がないのかも知れませんが）兎も角、清の王朝を代表する溥儀（フギ）が認め

たものを第三者であるソ連は認めてはいませんでした。

1945/8/15に終戦。その2日後に8月17日に満洲帝国の解体が決定。溥儀（フギ）は満洲帝国皇帝を退位し溥儀や溥傑、吉岡ら満洲帝国の首脳陣一行はソ連軍の空挺部隊に捕らえられ直ちにソ連領内に移送され、さらにソ連極東部のチタとハバロフスクの強制収容所に収監されました。極東軍事裁判（東京裁判）には、証人として連合国側から指名され、ソ連の監視下で東京へ護送され、ソ連側の証人として出廷。ソ連に有利な証言を強要されました。「自分の立場は日本の傀儡以外の何もののでもなかった」と主張させられました。その後、中華人民共和国で「戦犯」としてハルビンの政治犯収容所に、弟の溥傑や同じくソ連軍にとらえられた満洲国の閣僚や軍の上層部らとともに収監されました。1959年12月4日に、当時の劉少奇国家主席の出した「戦争犯罪人」に対する特赦令を受け、12月9日に模範囚として特赦されました。なお、溥儀とともに収容所に収監されていた溥傑も1960年11月20日に釈放されました。

これを私流に解釈すると自国の王家、王の事は無視して毛沢東（共産党軍・紅軍）と蒋介石（国民党軍）の覇権争いがあったので追われた王家は日本を頼り日本は庇護したという事になります。ロシアは満洲帝国を認めないとしましたが本来認めるか認めないかというのも越権行為で世界が認めた帝国がロシアではないのですから認めたくないだけのことであって認めないはどういうつもりということになります。

元々ロシアにはニコライ皇帝がいました。しかしレーニンはマル

クスの思想を受けて社会主義政権を樹立。その際にロシアからソビエト連邦（ソ連）とします。これに先立ちレーニンはニコライ皇帝とその一家は全員（皇帝・妻・子供6人）を処刑しロマノフ王朝は崩壊しました。共産思想は立前が平等ですから皇帝王朝制度を否定します。現にロマノフ王朝朝の圧政が続いた事から階級闘争を第一にかかげる共産主義政権が生まれています。その思想を毛沢東も 当初蒋介石も模倣しようとしたのですから清王朝は眼中にはなかった訳です。

ですから日本が当時のソ連に奪われれば天皇家は間違いなく解体され日本の男の殆どはシベリア行き、そして第一に施されるのはソ連語の習得と共産主義思想の教育だったことでしょう。統治するに当たって日本の誰を金日成キム・イルソンにしたのかは分かりませんが現在の北朝鮮は日本であったとしても不思議ではありませんでした。

太平洋戦争が大東亜戦争に、そしてアジア・太平洋戦争へと名前が変わるとの事から太平洋戦争を調べてきました。例えば『応仁の乱』ですが当時の渦中の人々が「俺は今、応仁の乱をやっているんだ」とは思っていない。

江藤新平に云わせれば「俺が佐賀の乱で、どうして西郷は西南の役なんだ」と文句を言いたいところでしょう。しっかりした定義は分かりませんが『乱』は「何でそんなことを」という思いを感じます。『役』ですと他には蒙古襲来の1274元寇の役、1281年弘安の役があります。更に最近では天下分け目の関ヶ原＝関ヶ原の戦いが関ヶ原の役になっています。つまり会津征伐、松川の

戦いから関ヶ原までを纏めてそう呼ぶようになったようです。更に大阪夏の陣と冬の陣をあわせて大阪の役となっています。

徳川家康は軍神・東照大権現という神になりました。西郷の明治政府への反逆を「西南の役」としているに「関ヶ原を戦い」では申し訳がないということなのではないでしょうか。真相は分かりませんが、こうして後生は遡ってネーミングを変えるようです。その事が的確に事の真相を真実を語っているのであればまだしも結論として太平洋戦争は大東亜戦争に戻した方が事の本質から離れていないという感慨を強く持ちます。

さて当時の中国で蒋介石（国民党軍）と毛沢東（共産党軍・紅軍）とが二手に分かれて覇権争いをしていたように実は日本にもそういう事がありました。1884年東条英機　V S　1889年石原莞爾です。歳の差5歳。1931年9月に東条英機了解のもと石原は柳条湖事件を自作自演し奉天・長春・営口といった各都市を占領していく所謂、満州事変を敢行しました。石原莞爾が起こした満州事変は緻密な計算と事後の展望がありました。1937年石原は関東軍参謀副長を任命され、新京に着任。しかし石原は満州国を満州人自らに運営させることを重視してアジアの盟友を育てようと考えていましたが、参謀長の東条英機は盟友を育てるのではなく日本が管理、運営すると考えていたので両者の確執が深まりました。二人の不仲は陰悪で例えば首相となった東条英機が、「ガタルカナルを救う方法は？」と尋ねると石原は「貴方では戦争は勝てない。総理大臣をやめるべきだ」と本人に言っています。石原莞爾は、昭和の陸軍軍人で「天才」と呼ばれた戦略構想家でした。石原は、若い頃から五歳年上の東条を「上等兵」「憲兵」と揶揄

するほど軽蔑したようです。そのような経緯から東条は石原外しにかかります。

1938年に参謀副長を罷免されて舞鶴要塞司令官に補せられ、1939年には留守第16師団に着任して師団長に補せられ太平洋戦争開戦前の1941年3月に現役を退いて予備役へ編入させられました。

内憂外患という言葉がありますが何が内憂かというと国の存亡の時に要職の二人が睚眦合っているのですから勝因が見いだせません。しかし唯一彼らの一致点は手法は違っても大東亜共栄圏構想であったと言うことは確かだと思います。